

柔道人口拡大のための調査研究

令和3年度のまとめ

令和4年3月

富山県柔道連盟

発刊にあたって

富山県柔道連盟会長

橘 川 謙 三



近年の柔道人口の減少は、富山県だけでなく全国的な傾向であり、柔道人口の拡大は、柔道界にとって喫緊の課題となっています。

また、文部科学省では、教員の働き方改革を踏まえた部活動改革で、令和5年度から休日の部活動の段階的な地域移行が検討されており、運動部活動としての柔道部の在り方が大きく変わろうとしています。

このような現状を踏まえ、富山県柔道連盟では、今年度、新たに「柔道人口拡大のための調査研究班」を立ち上げ、現状の把握や柔道人口拡大に向けた課題や改善方策並びに部活動の地域移行等について検討することとしました。

残念ながら、昨年からのコロナ禍のため、当初計画していましたアンケート調査等による実態把握などに十分に取組むことができませんでしたが、

- (1) 柔道人口に関する統計や資料
- (2) 柔道人口拡大のための検討会（グループワーク）の内容
- (3) スポーツ少年団やクラブなどの取組

については、冊子にまとめることができました。

柔道指導者の皆様には、本県の現状やグループワークで検討された課題や改善策などについてご一読いただき、日頃の活動の改善につながることにについては、積極的に取り入れていただきたいと思います。そして、この冊子が少しでも柔道人口の拡大を図るための参考資料となることを願っています。

終わりに、本冊子の作成のために資料提供や執筆などに格別のご協力をいただきました富山県教育委員会保健体育課や公益財団法人富山県体育協会、スポーツ少年団、クラブなどの関係の皆様に、心から感謝申し上げます。

目 次

1	柔道人口拡大のための調査研究班の概要	1
2	柔道人口の推移等に関する資料	3
(1)	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校の児童・生徒数の推移	3
(2)	柔道人口（会員登録者数）の推移	4
(3)	小学生・中学生・高校生の柔道部（クラブ）加入率（％）の推移	5
(4)	小学生・中学生・高校生男女別の柔道人口の推移	6
(5)	柔道スポーツ少年団員数の推移（他種目との比較）	6
(6)	中学校柔道部員数の推移（他種目との比較）	7
(7)	高等学校柔道部員数の推移（他種目との比較）	7
(8)	都道府県、スポーツの種類別行動者率－男女総数（15歳以上）；（柔道）	8
(9)	児童、中学生、高校生柔道人口（令和3年9月現在）	8
(10)	富山県の将来推定人口	8
(11)	出場選手が多かった頃の団体戦組合せ	9
3	柔道人口拡大のための検討会（グループワーク）	10
(1)	第1回検討会のまとめ	11
(2)	第2回検討会のまとめ	12
ア	第1グループ	12
イ	第2グループ	13
ウ	第3グループ	14
エ	第4グループ	15
4	スポーツ少年団・クラブ等の取組み	16
(1)	富山サンダーバーズ柔道クラブ	16
(2)	朝日町柔道協会	17
(3)	滑川市柔道スポーツ少年団	19
(4)	上市町柔道スポーツ少年団	21
(5)	富山市柔道協会木曜練習会	22
(6)	錬成塾	23
(7)	県営富山武道館	24
(8)	水橋錬成館柔道教室	26
(9)	共栄塾柔道場	27
(10)	柔心会	29
(11)	高岡市柔道連盟	30
(12)	中田柔道スポーツ少年団	32
(13)	戸出柔道スポーツ少年団	33
(14)	砺波市柔道スポーツ少年団	34
(15)	庄川柔道スポーツ少年団	35
(16)	小矢部柔道スポーツ少年団	36
	編集後記	38

第1章 柔道人口拡大のための調査研究班の概要

1 調査研究班の目的

(目的) 柔道人口の拡大を図るため、下記のことについて調査研究し、その成果を加盟団体等に提供する。

- (1) 柔道人口の推移
- (2) 加盟団体が抱える柔道普及に向けた課題
- (3) 柔道普及振興に向けた加盟団体の取組
- (4) 文部科学省の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」に関する県・市町村教育委員会、体育協会の対応策等についての情報収集
- (5) その他、柔道人口の拡大に必要な事項



2 調査研究班の構成

班長 宮崎 豊（副会長） 副班長 高瀬 宏（総務部長）

班員 石黒淳一（少年） 黒田一夫（中学） 梶谷正道（高校） 竹内優香（女性）

3 主な活動

11月3日(祝) 全柔連公認指導者資格更新講習会（新湊アイシン軽金属スポーツセンター）
「県内における登録者人数の現状と今後の課題について」講義（宮崎豊）

11月7日(日) 第3回常任理事会・理事会（滑川市総合体育センター）
富山県の中学・高校人口の推移（他種目との比較）などについて説明（宮崎豊）
（新湊アイシン軽金属スポーツセンター）

11月13日(土) 柔道人口拡大のための検討会1の開催（県営富山武道館）



令和4年

1月17日(日) 柔道人口拡大のための検討会(グループワーク)2の開催(新湊アイシン軽金属スポーツセンター)

2月13日(日) 第4回常任理事会・理事会(県営高岡武道館)

柔道人口拡大のための検討会(グループワーク)1及び2の結果報告(高瀬宏)

3月20日(日) 定例総会(富山電機ビルディング)

「柔道人口拡大のための調査研究令和3年度のまとめ」を配布

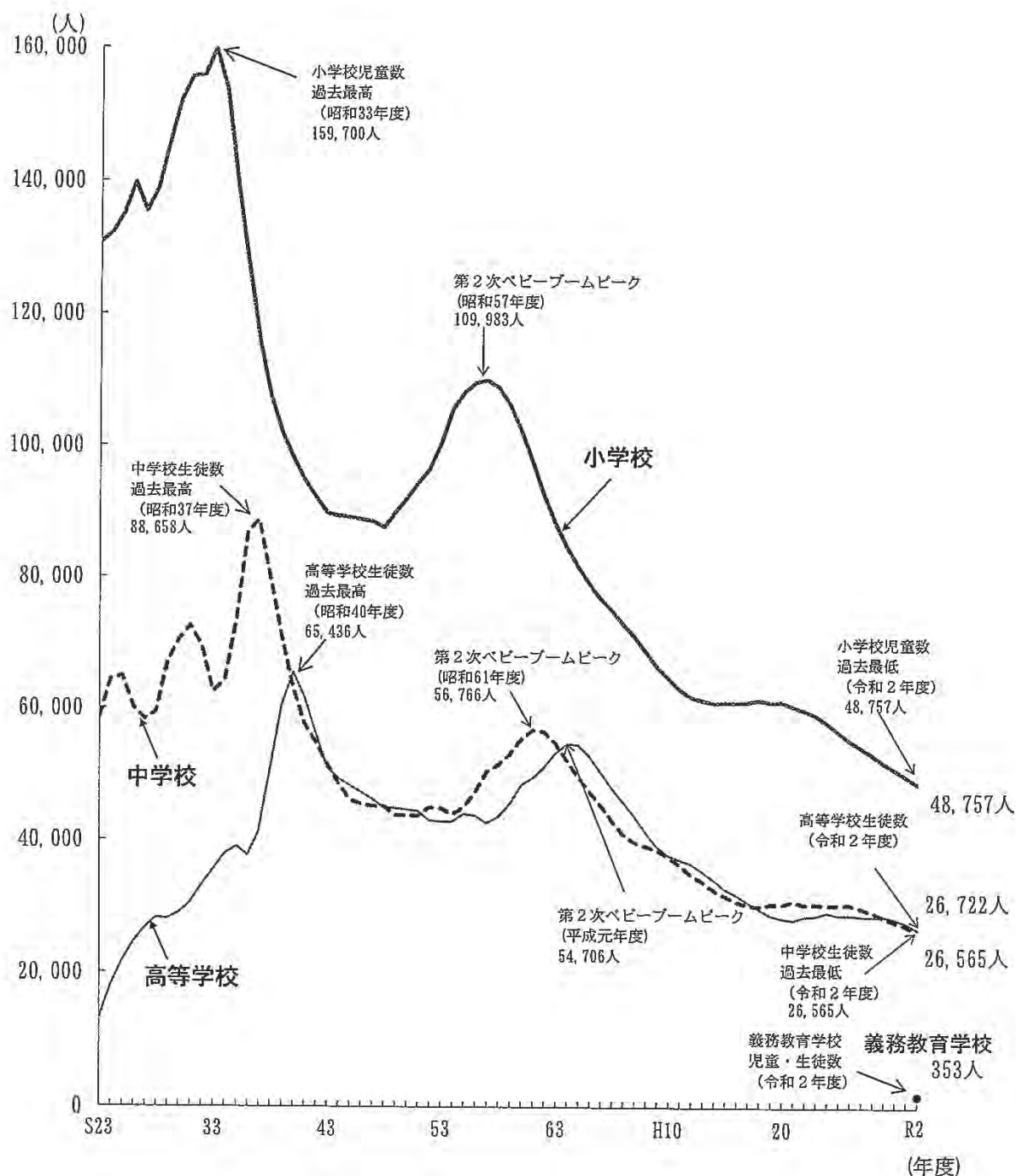
※ 4月28日(水)～11月29日(月)

4章に掲載している16のスポーツ少年団・クラブ等の練習を見学するとともに、指導者と柔道人口拡大のための課題や方策等について意見交換を行う。



第2章 柔道人口の推移等に関する資料

(1) 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校の児童・生徒数の推移



学校統計の概況 令和2年度学校基本調査報告書（富山県経営管理部統計調査課）より

令和2年度の小学校児童数は、過去最高である昭和33年度の30.5%、第2次ベビーブームピークの昭和57年度の44.3%である。同じく中学校生徒数については、過去最高の昭和37年度の30.0%、第2次ベビーブームピークの昭和61年度の46.8%となっている。（なお、将来（2045年）推定人口（0～14歳）については、P.8に掲載）

(2) 柔道人口（会員登録者数）の推移

	平成元年度 1989年度	2年度 1990年度	3年度 1991年度	4年度 1992年度	5年度 1993年度	6年度 1994年度	7年度 1995年度	8年度 1996年度	9年度 1997年度	10年度 1998年度	11年度 1999年度	12年度 2000年度
小学生	907	1140	2086	2160	2146	1913	1631	1499	547	610	938	594
中学生	841	874							927	889	781	921
高校生	821	863	897	870	871	792	727	628	559	529	426	444
大学生	40	60	53	62	67	77	82	79	83	81	31	76
社会人	854	869	824	817	779	700	682	619	604	592	482	584

	13年度 2001年度	14年度 2002年度	15年度 2003年度	16年度 2004年度	17年度 2005年度	18年度 2006年度	19年度 2007年度	20年度 2008年度	21年度 2009年度	22年度 2010年度	23年度 2011年度	24年度 2012年度
小学生	727	762	798	711	735	696	669	656	568	546	525	497
中学生	879	878	887	768	744	713	786	755	730	690	654	599
高校生	460	509	510	442	453	439	387	378	359	363	354	341
大学生	71	60	50	47	51	51	45	33	41	33	26	37
社会人	522	512	471	402	422	361	364	426	435	313	363	329

※ 太い数字は種別の最高人数

	25年度 2013年度	26年度 2014年度	27年度 2015年度	28年度 2016年度	29年度 2017年度	30年度 2018年度	令和元年度 2019年度	2年度 2020年度	ピーク年度と令和2年度 との登録者数の比較 (%)
小学生	469	444	414	396	440	429	451	346	30.4% (平成2年度)
中学生	578	569	543	513	472	410	384	364	39.2% (平成9年度)
高校生	321	295	273	288	279	259	248	210	23.4% (平成3年度)
大学生	33	31	27	29	28	25	21	15	18.1% (平成9年度)
社会人	285	326	356	353	335	326	322	249	28.7% (平成2年度)

※1 平成元年度～平成12年度 富山県柔道連盟 50周年記念誌より（平成3～8年度の小学生・中学生の内訳は不明）

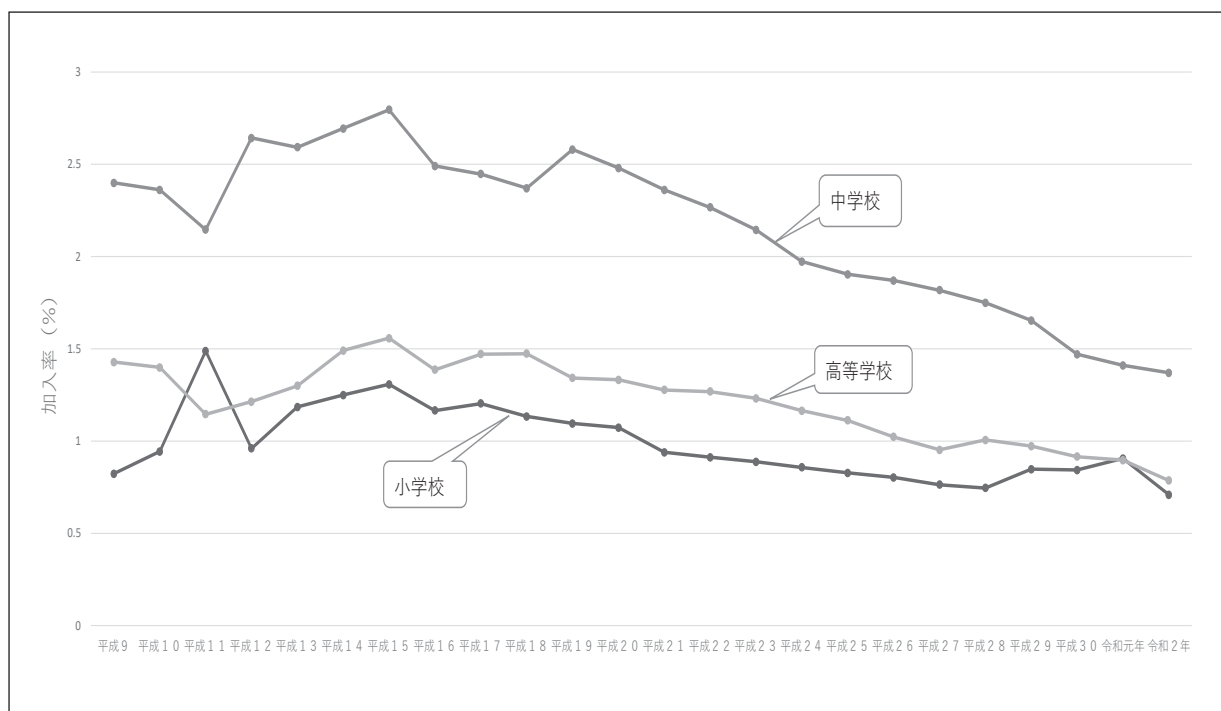
※2 平成13年度～平成25年度 河合正信氏作成の資料より

※3 平成27年度～令和2年度 富山県柔道連盟の資料より

富山県柔道連盟の会員登録者数については、50周年記念誌などから平成元年度以降のものについて知ることができた。

令和2年度の登録者数は、全国高等学校総合体育大会が富山県で開催された平成6年度前後と比較すると、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人の全ての種別で2～4割に減少している。

(3) 小学生・中学生・高校生の柔道部（クラブ）加入率（％）の推移



小学生	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20
部員数	547	610	938	594	727	762	798	711	735	696	669	656
生徒数	66,476	64,692	63,038	61,863	61,347	60,964	61,053	60,990	61,088	61,441	61,048	61,135
％	0.82	0.94	1.49	0.96	1.19	1.25	1.31	1.17	1.20	1.13	1.10	1.07
	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元年	令和2年
	568	546	525	497	469	444	414	396	440	429	451	346
	60,459	59,870	59,145	57,959	56,684	55,277	54,195	53,112	51,932	50,907	49,847	48,757
	0.94	0.91	0.89	0.86	0.83	0.80	0.76	0.75	0.85	0.84	0.90	0.71

中学生	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20
部員数	927	889	781	921	879	878	887	768	744	713	786	755
生徒数	38,628	37,637	36,396	34,842	33,900	32,590	31,730	30,835	30,402	30,076	30,456	30,443
％	2.40	2.36	2.15	2.64	2.59	2.69	2.80	2.49	2.45	2.37	2.58	2.48
	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元年	令和2年
	730	690	654	599	578	569	543	513	472	410	384	364
	30,918	30,448	30,500	30,364	30,372	30,419	29,867	29,312	28,534	27,879	27,235	26,565
	2.36	2.27	2.14	1.97	1.90	1.87	1.82	1.75	1.65	1.47	1.41	1.37

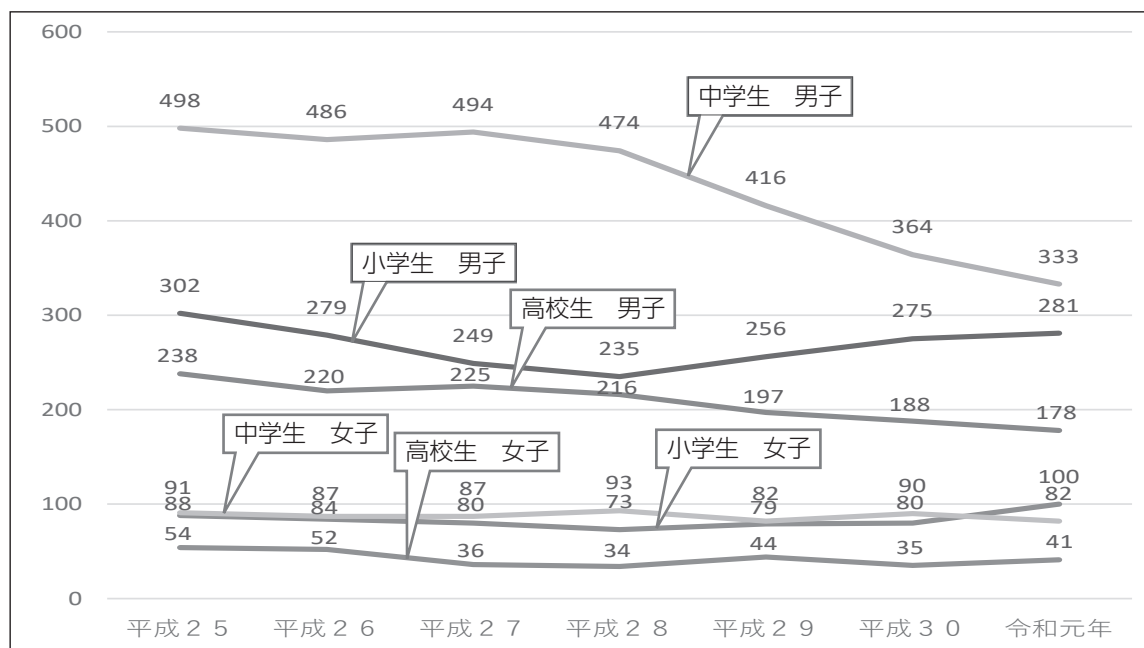
高校生	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20
部員数	559	529	426	444	460	509	510	442	453	439	387	378
生徒数	39,152	37,811	37,184	36,569	35,389	34,138	32,734	31,883	30,784	29,794	28,830	28,379
％	1.43	1.40	1.15	1.21	1.30	1.49	1.56	1.39	1.47	1.47	1.34	1.33
	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元年	令和2年
	359	363	354	341	321	295	273	288	279	259	248	210
	28,110	28,613	28,753	29,279	28,864	28,857	28,671	28,624	28,708	28,286	27,680	26,722
	1.28	1.27	1.23	1.16	1.11	1.02	0.95	1.01	0.97	0.92	0.90	0.79

※ 小学生・中学生・高校生の柔道部員数は登録者数

※ 生徒数は、学校統計の概況、令和2年度学校基本調査報告書（富山県経営管理部統計調査課）より上記の2つの資料をもとにグラフを作成

県内の全児童生徒数に占める柔道部（クラブ）員数（加入率）を図表にしたものである。令和2年度の加入率は、小学生（0.71％）ではピークの平成11年度（1.49％）の47.7%、中学生（1.37％）ではピークの平成15年度（2.80％）の48.9%、高校生（0.79％）ではピークの平成9年度（1.43％）の55.2%であった。

(4) 小学生・中学生・高校生男女別の柔道人口の推移



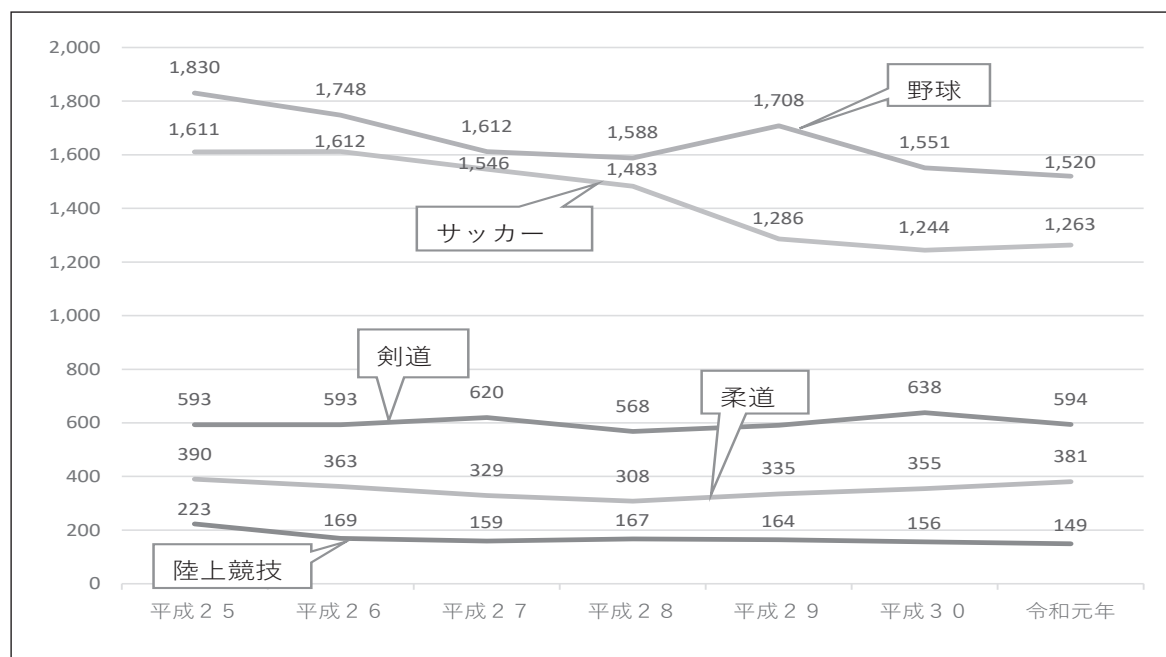
小学生は、富山県スポーツ少年団競技別登録状況一覧より

中高生は、富山県の学校体育「運動部活動の加入状況」(富山県教育委員会保健体育課)より作成

平成25年度～令和元年度の7年間の柔道人口の推移を表したものである。中学男子は平成25年度(498人)から令和元年度(333人)と大きく減少(66.9%)している。高校男子も平成25年度(498人)から令和2年度(178人)と減少している(74.8%)。

※ スポーツ人口等を把握するための調査方法は、機関・団体によって実施時期・内容等が異なることから、同じ数字にならないことを理解のうえ、図表をご覧ください。

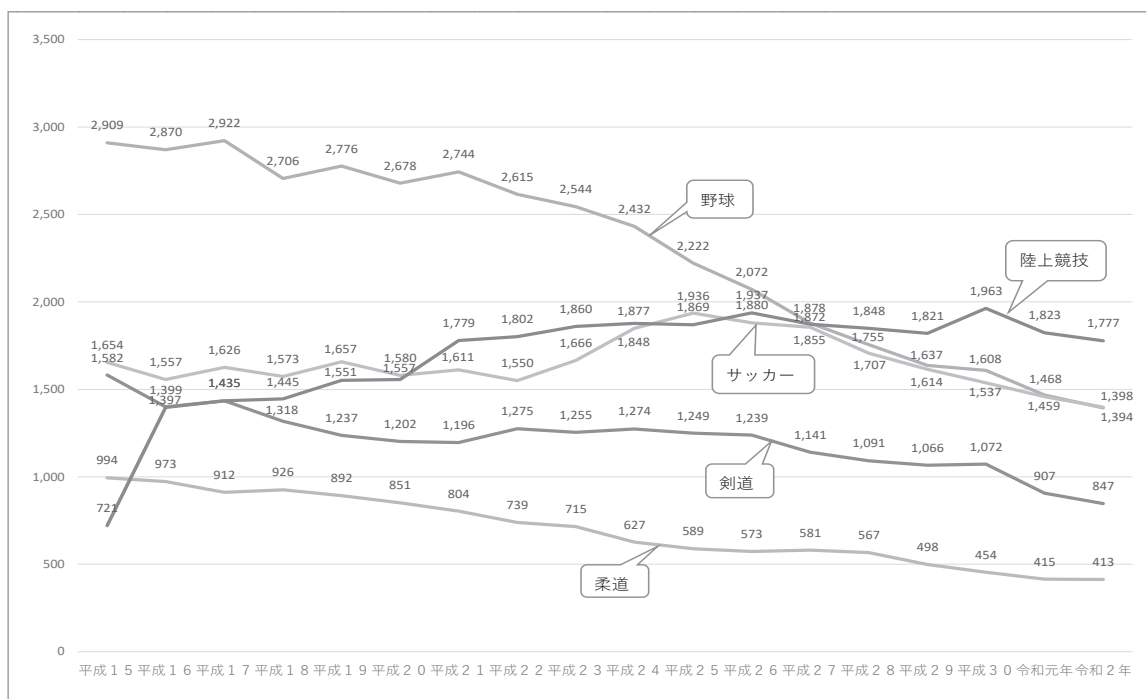
(5) 柔道スポーツ少年団員数の推移(他種目との比較)



公益財団法人富山県体育協会 富山県スポーツ少年団の登録者数の資料より作成

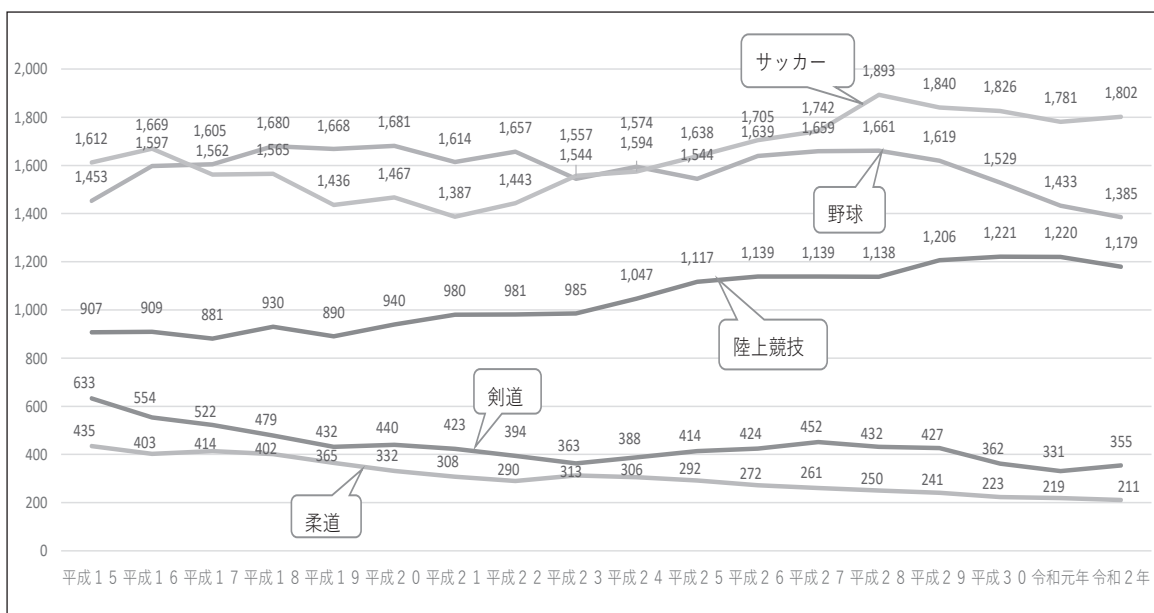
柔道、剣道のスポーツ少年団の登録者数は、ほぼ横ばいとなっている。サッカー、野球の登録人口が減少してきているのは、スポーツ少年団登録をしないクラブチームなどで活動している児童が増えているからと思われる。

(6) 中学校柔道部員数の推移（他種目との比較）



野球の減少が著しいが、その理由の一つにクラブチームに所属して活動する生徒の増加が考えられる。サッカーについても同様に考えられる。剣道、柔道も減少を続けているが、陸上競技はほぼ横ばい若干の増加がみられる。柔道、剣道は、ほぼ毎年減少している。

(7) 高等学校柔道部員数の推移（他種目との比較）



(6)、(7)は、富山県の学校体育「運動部活動の加入状況」(富山県教育委員会保健体育課)の資料をもとに作成

柔道是他種目より人数が少なく、毎年のように減少している。サッカーは増加傾向にあるが、野球はここ数年減少に転じている。陸上競技はほぼ毎年のように増加している。

(8) 都道府県、スポーツの種類別行動者率一男女総数(15歳以上) ; (柔道)

行動者率 (%)

0.7 埼玉、石川、三重、滋賀、和歌山、熊本

0.6 秋田、静岡、京都、大分、沖縄

0.5 全国、山形、栃木、千葉、神奈川、富山、山梨、愛知、兵庫、鳥取、山口、宮崎

平成 28 年度社会生活基本調査報告 第 2 巻全国・地域生活行動編の資料をもとに作成
【参考】 対象：全国の世帯から無作為に抽出した約 8 万 3 千世帯

15 歳以上の男女の柔道の行動者率は、0.5%で全国平均と同じである。

(9) 児童、中学生、高校生柔道人口 (令和 3 年 9 月現在)

	男子	女子	計
小学生	331	119	450
中学生	369	77	446
高校生	153	26	179

富山県柔道連盟で調査したものである。P.4 の会員登録者数とは、調査時期、調査方法が異なるため正確には比較できないが、小学生・中学生は令和 2 年度より増加しているが、高校生は減少している。

(10) 富山県の将来推定人口

0 ～ 14 歳人口の推計

	平成 27 年 2015 年	平成 32 年 2020 年	平成 37 年 2025 年	平成 42 年 2030 年	平成 47 年 2035 年	平成 52 年 2040 年	平成 57 年 2045 年
人口	129 千人	117 千人	106 千人	98 千人	90 千人	85 千人	81 千人
%	100%	91%	82%	76%	70%	66%	63%

※ 平成 27 (2015) = 100%

総人口の推計

平成 27 年 2015 年	平成 32 年 2020 年	平成 37 年 2025 年	平成 42 年 2030 年	平成 47 年 2035 年	平成 52 年 2040 年	平成 57 年 2045 年	平成 42 年 2030 年	平成 57 年 2045 年
1,066,328	1,034,691	996,442	954,745	910,161	863,342	817,398	89.5%	76.7%

年齢別人口

0 ～ 4 歳人口			15 ～ 64 歳人口			65 歳以上人口			75 歳以上人口		
2015 年	2045 年	%	2015 年	2045 年	%	2015 年	2045 年	%	2015 年	2045 年	%
129,453	80,766	62.4	611,064	407,488	66.7	325,811	329,144	101.0	160,223	192,112	119.9

国立社会保障・人口問題研究所編集 一般財団法人 厚生労働統計協会発行
日本の地域別将来推計人口ー平成 27 (2015) ～ 57 (2045) 年より作成

0 ～ 14 歳の人口は、2015 年の 12 万 9 千人が、30 年後の 2045 年には、63%の 8 万 1 千人まで減少すると推定されている。0 ～ 14 歳人口の減少が総人口の減少以上に進むと推定されている。

(11) 出場選手が多かった頃の団体戦組合せ

平成7年度 第44回富山県高等学校総合体育大会柔道競技

男子団体戦

1 小	2 大	3 水	4 有	5 高岡工	6 水	7 富山東	8 八尾	9 砺波工	10 富山第一	11 石動	12 富山	13 新	14 富山中部	15 入善	16 富山北部	17 二上工	18 不二越工	19 富山商船	20 泊	21 高
監督	横川	中村	岩山	高橋	北林	加藤	高岡	岡水	内山	向山	西野	山崎	高橋	谷口	沢田	河合	藤又	石黒	松倉	沖野
大将	熊野	内河	澤口	浜下	佐々木	松本	岡崎	高田	前田	河原	山田	高橋	高野	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋
副将	藍城	沖	岩永	山本	林	山本	荒井	野原	川原	山田	國所	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋
中堅	山口	中橋	三浦	藤原	末武	松井	菅田	川合	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田
次鋒	高野	中川	中川	山口	藤原	藤原	中島	水上	浅長	小橋	沢田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田
先鋒	谷口	西島	黒崎	新谷	中井	杉本	森口	中島	安宅	南保	安井	林	高橋	五十嵐	久野	前田	加藤	鈴木	水野	大江
補欠	安達	大井	砂山	室	賀谷	山口	松岡	伊東	上埜	糸氏	荒木	森	米島	荒川	増川	横井	松尾	渡辺	大岡知	
補欠	岡本	山田		清原		西村	佐伯	南	中村	中野		一島	堀岡	谷井	末武	道島				

22 高岡工芸	23 桜井	24 福野	25 高岡穀谷	26 上市	27 大沢野工	28 中央農葉	29 新川	30 水見	31 高岡第一	32 富山工業	33 富山西	34 高岡	35 富山高専	36 富山商業	37 雄山	38 魚津	39 福岡	40 朝霞	41 伏木	42 魚津工業	43 富山南	
阪	館	萩布	岩城	高瀬	村田	小橋	木下	番匠	早苗	藤田	藤田	松井	島林	石倉	坂武	小川	小川	花川	坂原	監督		
松岡	門	中島	石岡	草木	野上	中村	清水	沢田	出崎	松元	小津	島	高木	松岡	平川	中山	吉田	荒木	岡田	平野	飯田	大村
青藤	佐々木	中村	田中	中川	安井	清水	神田	池田	米田	金井	津野	新田	石原	寺崎	川崎	河井	待地	四ツ谷	副将			
七澤	西尾	前田	平田	安川	竹内	金山	滝本	青野	神田	長森	前川	空大	寺西	大戸	深川	山上	藤井	大井	平野	熊野	中堅	
能作	高山	川合	森	大倉	菅田	中島	渡辺	茶山	吉野	西野	田畑	炭谷	藤井	岩川	大場	高野	園美	高野	宮崎	青島	堀江	次鋒
明石	吉田	坂本	本多	島崎	藤水	西野	高村	表	西田	和泉	辰見	一松	新	杉原	庄司	森田	中西	中村	大原	杉原	先鋒	
原	青木	中西	石田	品川	宮田	池田	村上	西野	村上	浅岡	坂本	村中	谷岡	森田	中谷	井加田	橋本	中田	藤吉	補欠		
林	平田	今井	米島	廣瀬	中村	木村	石田	三國	竹	和島	井加田	西野	山下	有馬				杉原	柿澤	補欠		

女子団体戦

監督	横川	原	向	岩城	岡本	高岡	早苗	松倉	小川	島林	庄司	高瀬	監督
大将	田上	上島	吉川	大原	山下	俊明	米田	渡辺	野崎	桑名	高田	船村	大将
中堅	橋本	原	佐々木	山本	長谷	石上	安田	野寺	川森	品山	三輪	田辺	中堅
先鋒	山田	里見	坂本	前田	酒井	広田			堀井	福井	京角	高橋	先鋒
補欠	海老		北山	山下	谷井	能登			押川	中田	竹氏	補欠	

平成6年度全国高等学校総合体育大会が富山県で開催された翌年度の富山県高等学校総合体育大会柔道競技の団体戦の組合せである。男子団体戦に42校と県内ほとんどの高校が参加している。女子団体戦にも12校が参加している。ほとんどの学校が補欠選手を2名登録している。平成6年度は、男子団体戦に43校が参加しているが、その資料は入手できなかった。

第3章 柔道人口拡大のための検討会（グループワーク）

第1回検討会

令和3年11月13日（土） 会場：県営富山武道館



〈KJ法〉

アイデアや思いつきを効率よく整理、グループ化してまとめていく手法。

ネーミングは、発案者の川喜田二郎氏のイニシャルからつけられた。

検討内容

柔道人口全般（小・中・高・一般）の減少（現状・課題、改善策）について検討

検討会の進め方

KJ法を用いた現状、課題の発見とその改善策についての検討

- ① リーダー、記録係を決める
- ② 付箋に現状（問題点・課題）を記入
- ③ 意見交換をしながら、模造紙に同じ内容の付箋を集める。（グループ化）
- ④ 現状の改善策について、付箋に記入
- ⑤ 意見交換をしながら、模造紙に同じ内容の付箋を集める。（グループ化）
- ⑥ リーダーを中心に、課題と改善策等が関連づけて説明（発表）できるように話し合う
- ⑦ リーダーによる発表

第2回検討会

令和4年1月16日（日）

会場：新湊アイシン軽金属スポーツセンター

検討内容

「柔道の魅力発信」と「魅力ある柔道の活動」の2テーマについて検討



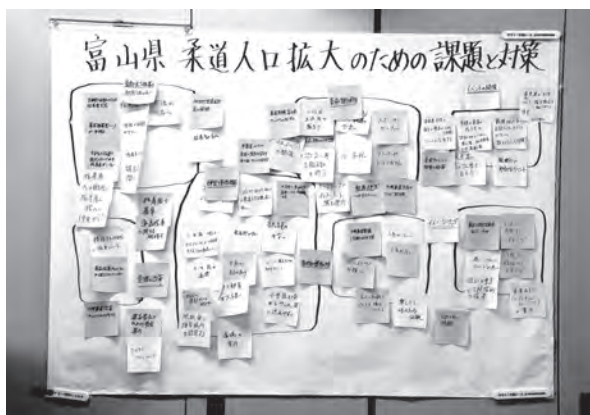
第1回検討会

テーマ： 富山県柔道人口拡大のための課題と対策

リーダー：黒田一夫 記録係：立浪 祐

岩脇 聡、平田裕康、梶谷正道、村田憲三

1 課題（問題点）



- (1) 「痛い」、「厳しい」、「事故・怪我に結びつく」などの社会的な捉え方が根強くあり、習い事や部活動を選択するという機会において敬遠される。
- (2) 学校部活動などの柔道に取り組む機会・環境が不足している。柔道部がある中学・高校は減少の一途をたどり、もはや部員を確保する云々の問題ではない。
- (3) スケートボードなど、五輪種目として新たに採用される競技への注目が高まる一方で、柔道の魅力が発信される機会は不足している。

- (4) 指導者不足の問題は喫緊の問題である。特に、部活動顧問や部活動指導員、女性指導者の不足は深刻である。
- (5) 大会での結果（成果）を追い求めすぎる柔道指導、所謂「行き過ぎた指導」には魅力は感じられず、柔道のイメージを悪くする一因と言わざるを得ない。

2 対策（改善策）

- (1) 練習の中に「遊び」の要素を積極的に取り入れ、「楽しい」、「おもしろい」、「できる」などの喜びや効力感を感じさせる指導の普及が必要である。同時に、重大事故、暴力に繋がるような要素は徹底的に排除しなければならない。
- (2) 少子化や教員の「働き方改革」などが進む中において、学校部活動における柔道部減少はもはや回避できない。県内各地区における道場の案内や、部活動ではなく習い事としての中高生の練習環境の確保・整備が必要である。
- (3) 柔道の魅力を発信するイベントの企画・開催が考えられる。従来の広報活動に加えて、各種メディアやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用する。また、親子で柔道が体験できるなどのイベント企画も想定される。
- (4) 県内各地区において柔道指導者を積極的に募集する他ない。また同時に、指導に対する報酬（謝礼）など指導者の待遇面での改善が求められる。
- (5) 指導者は柔道修行者の中でも模範的な立場にあり、そのことを踏まえて柔道指導に取り組む必要がある。その上で、発達段階に応じた柔道指導の在り方・方法論を学ぶ環境（講習会など）の整備が必要である。

3 感想

「柔道人口の減少」は、富山県に限らず日本柔道界全体が抱える最大かつ深刻な課題であることを認識しました。そして、それは単に少子化によって引き起こされる現象というだけではなく、暴力・体罰の根絶、重大事故の防止、青少年の練習環境の確保、女性の登用や良質な指導者の育成など、様々な課題が複合的に関連し合っており、根深い問題であることに気づくことができました。

（立浪 祐）



第2回検討会

テーマ：「柔道の魅力発信について」

第1グループ

リーダー：関岡邦夫 記録係：杉森雅樹
山谷大有、細呂木篤志、田辺多香子

1 課題（問題点）

もともと柔道は道場での活動から始まっている。道場は、修行をしたい人が集まる場所であるため、勧誘する必要はなかった。しかし、現代のように情報が自由に入る世の中であって、人を待っていても人は集まらず、柔道の活動や良さをアウトプットする必要が出てきた。他の多くのスポーツがその良さを発信している現代にあって、柔道は体質的に古いと考えられる。社会に開かれた柔道となるべきである。そこで、以下の問題点がでてきた。

- (1) 柔道の良さや活動の様子が、一般の人々、特に、児童生徒をもつ保護者に伝わっていない。
- (2) メディア等を活用した発信力がないため、柔道の魅力が多くの人に伝わらない。
- (3) 一般の人々のニーズに合わせ、柔道ができる活動、良さを伝えていない。
- (4) 学校の教育活動や部活動、そして、行政等と連携し、広く柔道の活動や良さを伝えていくことができていない。
- (5) 社会貢献活動等の取組が、伝えられていない。

2 対策

(1) メディアの活用

高体連がYouTubeで試合を配信していた。これは、保護者限定であったが、氷見市の全国中学生ハンドボール大会にあるように、出場者の個人写真等も写し、試合の様子を配信したら、柔道の面白さが伝わると考えられる。

(2) 一般社会人の取り込み

一般の人々が柔道を身近に取り組めるようになれば、多くの人が良さをアピールするようになる。保護者も一緒に柔道ができる環境をつくる。気軽に柔道を習える教室を開くと良いのではと考える。指導者の確保にもつながる。

(3) 指導者と保護者との連携

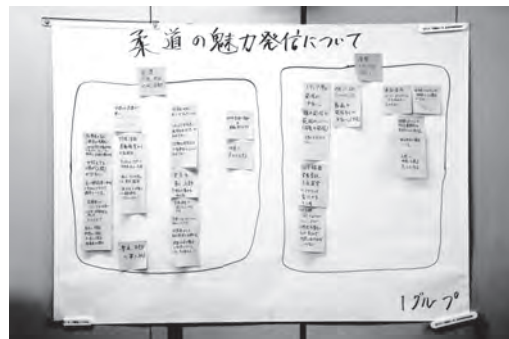
スポーツの指導者の多くは、一方向の情報伝達で双方向の情報交換になっていない。そこで、保護者のニーズや情報も取り入れた活動を推進するために、ラインやSNSを活用しニーズや意見をふまえた活動とする必要がある。

(4) 柔道を行う団体の活動をPR

団体の活動のPRとして、成績はもちろんであるが、児童生徒の成長にどのような効果があるのか、その他の社会貢献活動にどのようなことをしているかなど、活動を明確にする必要がある。特に、発達障害をもつ児童生徒でも柔道で改善された例や、柔道団体が地域社会に貢献したことをしっかりと世の中に伝えていくことが大切である。

(5) 学校や行政との連携

学校体育に武道が入り、本県では多くの学校が柔道を体育に取り入れている。これは柔道の良さや楽しさを多くの人が体験できる場である。安全な授業はもちろんのこと、その中に、柔道の良さを味わえることもするべきではないだろうか。そこから、柔道を知り世の中に広まる一歩をつくっていけないのではないか。また、地域部活動への移行もあり、行政や学校との連携は不可欠となる。行政の情報発信力や財源、そして、学校の情報発信力を活用し、柔道をPRし、保護者が地域部活動にも安心して参加させられる体制を行政や学校と構築していくことが必要と考える。



3 感想

保護者の中から、他のスポーツに比べ柔道は敷居が高いという話を聞く。柔道を身近に感じてもらうための活動をする必要があると思われる。そのために、メディアによる発信と宣伝は、これから先、柔道界では必要となる。また、柔道の良さを楽しさの中に見いだす工夫を指導者として行う必要もあり、柔軟な考えをもちながら、柔道の本質を教えることができる指導者の育成等、体制を大きく変えていく必要があると今回の検討会から感じる事ができた。

(山谷大有)

テーマ：「柔道の魅力発信について」

第2グループ

リーダー：竹田健悟 記録係：林 洋央
牧 亮平、山田隆司、梶谷正道

1 課題（問題点）



- (1) 柔道に対する一般的なイメージが「怪我をしやすい」、「きつい」、「痛い」などマイナスなものが多い。
- (2) 素人が試合を見るとルールがわかりにくい。
- (3) 柔道を始めたくても問い合わせ先がわからない場合がある。
- (4) 試合が深夜に放送される場合が多く、なかなか一般の人の目にはつかない。
- (5) SNS 等での情報発信が少なく、一般の人に伝わっていない。
- (6) 柔道の魅力について定まっていないため、魅力発信やアピールができていない。
- (7) 柔道人口の減少により、中学校、高校の部活動が減ってきている。
- (8) 全体的に指導者不足が見られるが、特に若い指導者、女性の指導者が少ない。
- (9) 指導者資格の取得に複数日の受講が必要であり、取りにくい。

2 対策（改善策）

- (1) 柔道に対するマイナスイメージを変えるために、練習内容について勝つための練習ではなく、楽しく体を動かすことを意識した練習を取り入れたりする。
- (2) 指導を始めたばかりの指導者でも子どもがしっかりと体の使い方を覚えられるような練習内容を公開して、共有することで全体的な底上げを行う。
- (3) 柔道に求められるものや魅力を聞き取り調査して、そのデータを元に今後の改善策を考える。
- (4) ホームページ内に柔道のルールについて簡単に解説したものを掲載し、素人が見てもわかるようにする。
- (5) 柔道の魅力を発信するためにキャッチコピーをつくり、ポスターを掲示することで柔道の魅力発信、イメージの改善につなげる。
- (6) テレビ、SNS、新聞などの各種メディアを活用し柔道の魅力を発信する。また、試合の放送などを行い、一般の人が柔道に触れられる機会をつくる。
- (7) ケーブルテレビを活用し、県内の試合の様子を放送することで、試合会場で試合を見られない人も見られるようにする。
- (8) 柔道に関するイベントを開催し、地域の人を呼び込むなどして柔道に触れることができる機会をつくる。
- (9) 形の部による大会を開催し、実戦形式のものでは得られない柔道の魅力を発信する機会にする。
- (10) 練習内容の改善検討を行うための指導者育成講習を開催する。
- (11) 女性指導者の育成につなげるため、柔道連盟の女性役員を多く選出する。

3 感想

指導者の年齢や指導している子どもの年齢が異なるなど、練習環境が違う人同士での話し合いは、多種多様な意見交換ができる良い機会となった。しかし、話し合いを行うことだけで終わることなく、この話し合いによる内容をフィードバックして行動に移していく必要がある。特に、柔道にあるマイナスのイメージを変えていくことが今後の柔道人口を増やしていく鍵になると思われる。そのため、柔道の楽しさや魅力を発信することを意識しながら指導者として今後できることを考えていきたい。



(竹田健悟)

テーマ：「魅力ある柔道の活動について」

第3グループ

リーダー：深川 勇 記録係：大西将也
岡本賢治、海老雄二、平田裕康

1 課題（問題点）と対策（改善策）

(1) 指導者の勉強不足もあり、時代にあっていない指導方法になっている。

➡指導法についての勉強会や、ルール講習会を定期的に行う。また、指導により報酬（謝礼）を得られる仕組みづくりをすることで、指導者の確保及び指導の質の向上につながるのではないかな。

(2) 練習方法について、子どもが楽しさを感じづらい内容になっている。

➡柔道遊びや形の練習、コーディネーショントレーニングを取り入れ、練習内容に変化を加える。また親子での練習やトレーニングを行う機会を設定し、柔道をコミュニケーションの場の一つとして提案していく。

(3) 柔道人口が減少している。

➡小学校から中学校へ上がるタイミングで著しく柔道人口が減少している。小学校・中学校・高校合同の大会や練習会を企画し、縦のつながりを作ることで、長く柔道を続けるイメージ作りをする。また、一般（社会人）のカテゴリについては一部のトップ選手を除いて、目標とする試合が少ないのも柔道人口が減少する要因の一つであるため、社会人が目指す大会も実施する。

(4) 子どもたちに柔道の魅力が伝わりづらい。

➡小学校や、中学校へ出向きチラシを配布したり体験会を実施したりする。また、中学校に柔道部がある学校を一覧として取りまとめ小学生に情報提供をする。また、そういった相談を受け付ける窓口を設置する。

(5) 夢や目標を持ちづらい。

➡有名選手を招聘し、柔道教室を実施する。

(6) 用具に問題がある。

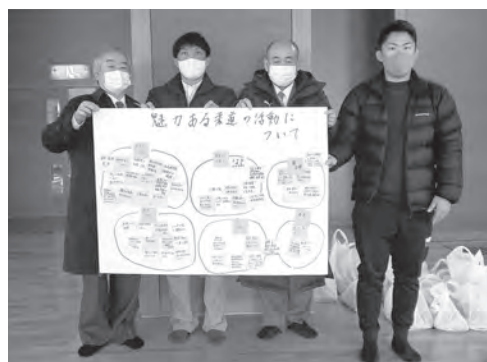
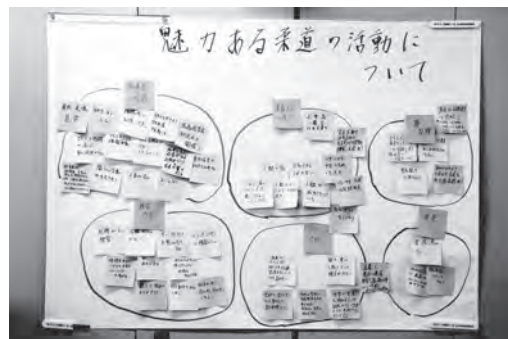
➡柔道衣が高価なことから、新しく始めるにはハードルが高いため、柔道衣を着ない柔道教室（受け身や礼法、体づくり運動等）を実施したり、柔道衣を寄付してもらい柔道体験会を実施したりする。また、他の競技のユニフォームに比べ地味なためマークや色を工夫する。

2 感想

今回の検討会を経て、「柔道人口の減少」問題の根底には少子化や指導者不足、不適切な指導など、柔道界全体としてのさまざまな課題がある以上、チームや学校単位の対策では解決は難しいと考えまし

た。特に少子化による柔道人口の減少については、今まさに全国的に直面している課題です。部活動の地域移行化が進んでいくという流れの中にあっても、まだまだその具体的な方向性が見えていないと感じます。富山県四地区それぞれにロールモデルとなるクラブチームを設置するなど、早急に具体的な対策を講じなければならない課題であると感じました。

（大西将也）

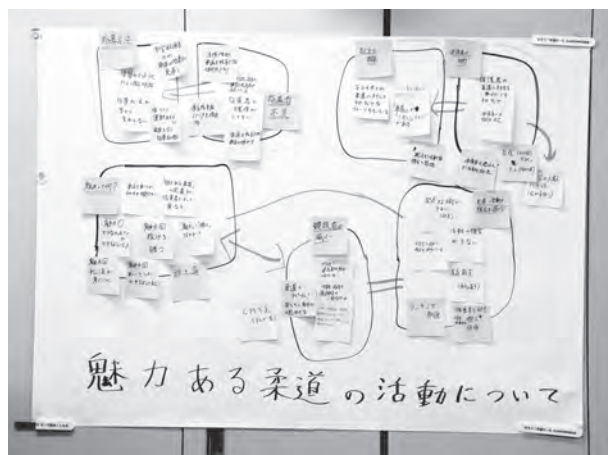


テーマ：「魅力ある柔道の活動について」

第4グループ

リーダー：高瀬 宏 記録係：竹内優香
岩脇 聡、安達春樹、石黒淳一

1 課題（問題点）と対策（改善策）



(1) 「柔道の魅力」に対する指導者側の認識が曖昧である。

➡ 柔道の魅力には、礼法が身に付くこと、できなかったことができるようになることなど、様々なことが挙げられるが、「試合で勝つこと」に重点が置かれる傾向にある。指導者は柔道の魅力を多面的な視点で捉えることが重要である。

(2) 年齢が上がるに従って柔道人口が減少しており、多くの中学校では柔道部が廃部や休部になっている。

➡ 指導者が子供たちに柔道の魅力を伝えられていないことが要因の一つとして考えられる。柔道の魅力を子供たちに積極的にアピールすることが求められる。

(3) 練習の成果を発揮する機会や柔道を体験する機会が少ない。

➡ 試合で自分の力を発揮することや、有名な選手を招いた柔道教室は、子供たちにとって貴重な経験となる。また、初心者を対象に柔道の体験教室を開催することで、多くの人が柔道の楽しさや魅力に触れる機会を得ることができる。小学生の大会にランキング制度を導入し、競技力の指標とすることでも、モチベーションの向上ができると考えられる。

(4) 子供たちや保護者は柔道に対してネガティブなイメージを持っていることが多く、柔道を習うことに消極的である。

➡ 子供の考えは保護者の影響を受けやすいため、まずは柔道に対する保護者の認識を変える必要がある。子供と一緒に柔道衣を着て親子で柔道を体験できる教室を開催したり、大人の初心者に対して初段の取得を簡易化したりすることなど、保護者が子供と一緒に柔道ができる環境を整備することが考えられる。

(5) 指導者が不足している。特に、中学校、高等学校に柔道の専門知識を持った教員が極端に少ない。また、練習内容、指導方法が変わらない。

➡ 柔道指導者バンクを作成し、地域ぐるみで柔道を指導できる体制を作る。また、体づくり運動や運動遊びの中に柔道の動きを取り入れることで柔道に興味を持ってもらう。

2 感想

普段から小、中、高校生の指導に携わる先生方の意見を聞き、柔道の魅力について改めて深く考えさせられた。中学校保健体育教員として、子供たちに柔道の楽しさを味わわせる授業の工夫をこれからも研究し、柔道人口の拡大に貢献していきたい。
(竹内優香)



第4章 スポーツ少年団・クラブ等の取組み

(1) 富山サンダーバーズ柔道クラブ (T-birds judo club)

「学校と地域が協働、融合したクラブを目指して」

1 クラブの概要

プロ野球独立リーグに加盟している、富山 GRN サンダーバーズとチーム名を共有し、野球だけでなく陸上や体操、女子ラグビーとスポーツコミュニティを結成し、柔道の普及・発展、競技力向上等をねらいとし令和3年4月に発足したクラブである。

クラブ設立の背景には、小・中・高校生の柔道人口の減少、学校部活動における指導者不足、教員の働き方改革を踏まえた部活動改革などの様々な課題が出てきたことにある。

指導方針は「精力善用」「自他共栄」の柔道精神を体現できる人間教育を念頭に、幅広い年代に柔道の楽しさを伝えることを目指している。また、長期的な視点から全国で活躍できる選手を育成する一方で、地域のスポーツ振興に貢献できる人材を育成することである。

クラブの最大のメリットは幅広い年代の選手が同時に練習することで「学び合い・教え合い」の環境がつくり出されるということにある。年齢、性別、競技歴、力量など様々な選手が混在している「非競争的な状況」では、「ぶつかり稽古」「互角稽古」「引き立て稽古」(三様の稽古)が自然と成り立つ。このことは、上級者・下級者お互いにとって良質な練習機会となるだけでなく、社会性を身につける機会にもなる。そのため、より充実した練習環境を整備するためには、クラブ生の募集・拡大が当面の課題であると言える。

現在、指導スタッフ8名、クラブ生は小杉高校・小杉中学校の生徒が中心であるが、高校生28名、中学生25名が在籍している。活動場所は小杉高等学校柔道場でおこなっており、活動時間は毎週月、木曜日が17:30～19:00、毎週土曜日が9:00～12:00に活動している。

2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

主な事業として下記のことを計画している。

- ① 柔道の普及に関する事業
 - ・小学生を対象とした体験教室及び練習会
- ② 柔道の育成・強化に関する事業
 - ・中学生、高校生対象の柔道教室及び練習会
 - ・トレーニング講習会、体力測定
 - ・有名選手を招聘して柔道セミナー
 - ・クラブカップ柔道大会の開催(県外チーム招聘)
 - ・女子対象の柔道教室、ワークショップの開催
 - ・国体や実業団等の全日本クラスの大会を目指す社会人選手の育成
 - ・段位取得に関する指導
- ③ 柔道の指導者育成に関する事業
 - ・有名指導者による指導力向上を図る講習会
 - ・各種専門家による指導者の資質向上を図る講習会
 - ・県内各地の少年柔道教室等への指導者派遣
- ④ その他目的を達成するために必要な事業
 - ・他種目との交流会(野球、陸上、ラグビー、体操等)
 - ・障害者スポーツの支援



パワーヨガ教室

3 今後、取り組みたいこと

- ・小学生の募集や社会人選手の練習環境の整備をする。
 - ・サンダーバーズ・スポーツコミュニティを活用した他競技との交流を図り、単一種目だけでなく、他競技(野球、陸上、ラグビー、体操等)を体験することで、競技力の向上に繋げる取り組みを行う。
- (高波善行、岩脇 聡)



(2) 朝日町柔道協会

地域とともにある柔道 ～スポーツ少年団・学校部活動・柔道協会の連携～

1 朝日町における柔道の歩み

(スポーツ少年団、朝日中学校、部活動コミュニティ・クラブの概要)

○スポーツ少年団「桜町正気柔道スポーツ少年団 南茂道場」

1986(昭和61)年、南茂進氏(故人)が子どもの健全育成のために創設。当時は地区の公民館に畳を引いて活動していたが、進氏が自宅敷地に約200畳の道場を建てる。道場設立後から子の南茂英夫氏(故人)が指導の中心となり、柔道の普及振興に尽力する。現在は英夫氏の子息、南茂勇気氏が中心となり、週に3回、幼児から中学生まで指導している。現在まで約200名の卒団生を輩出している。

○朝日中学校柔道部

1982(昭和57)年に町内2中学校が合併して開校。同時に柔道部が結成される。開校時の顧問は南茂英夫氏(故人)であり、13年間の部活動指導において、男子団体戦で全国大会3位入賞を含み5回出場、北信越大会5連覇等の偉業を果たす。後任の鍋島正茂氏が顧問の時には男子団体戦、女子団体戦において全国大会で3位入賞を果たすとともに、平成13年には個人90kg超級で全国大会優勝者を輩出する。これまで、全国大会において男子団体戦では3位入賞2回を含み12回出場、女子団体戦で1回出場しており、個人戦では優勝者1名、2位2名、3位5名を含む、延べ67人が出場している。現在は、部活動指導員の南茂勇気氏が指導の中心となって活動している。

○朝日町部活動コミュニティ・クラブ

令和3年度より、活動を開始する。朝日町教育委員会が主導し、朝日町体育協会の理解と協力を得て、部活動地域移行の受け皿として組織される。朝日町柔道協会も協力し、指導員を派遣している。

2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

○地域とともに歩む部活動(朝日町柔道協会 朝日中学校の取組)

国が定める部活動のガイドラインでは、休日1日を含む2日間を休養日に当てることが定められており、学校部活動は原則週5日間の実施となる。朝日町では、この5日間のうち、2日間を「朝日町部活動コミュニティ・クラブ」として活動している。本クラブでは、朝日町柔道協会から派遣された指導者が指導にあたっている。これまでは、部活動指導の大半を学校の顧問が担ってきたが、この仕組みにより、多数の地域指導者の学校部活動への参加が可能となり、柔道協会や地域の指導者にとっては、これまで遠慮しがちであった柔道指導に積極的に携わることができるようになるきっかけとなっている。また、子供にとっては、多くの指導者から緻密な指導を受けられるようになり、競技力向上だけでなく、人間関係の広がりにも期待ができる。さらに、学校顧問にとっても、いわゆる「働き方改革」につながっており、柔道協会や指導者にとっても、子供にとっても、学校顧問にとっても「三方よし」となっている。



中学生の自主トレーニング

○保小中の切れ目のない指導（桜町正気スポーツ少年団 南茂道場の取組）

現在、桜町正気スポーツ少年団は、小学生 21 名、中学生 15 名で活動している。小学校を卒業しても、引き続きスポーツ少年団で活動することができ、朝日中学校柔道部員の多くはスポーツ少年団にも登録しているなど、幅広い年代の受け皿となっている。朝日中学校の部活動指導員である南茂勇氣氏が指導の中心となっており、小中の発達段階や成長を見通した指導が展開されている。さらに、中学生にとっては、南茂氏は学校部活動や部活動コミュニティ・クラブの指導者でもあるため、一貫した指導を受けることが可能になっている。



小学生向けの柔道体験教室

また、2月から3月にかけては、小学生を対象にした体験会を開催している。遊びを通して柔道の本質に触れる体験をして柔道の魅力を味わうことにより、柔道をやりたいという子供が少しずつ増えている。

3 これから取り組みたいこと

○部活動地域移行のさらなる拡大（朝日中学校）

現在、朝日中学校では、「部活動コミュニティ・クラブ」として週2日間の活動をしている。今後、町教育委員会や学校と連携しながら、活動日を増やすことなどを検討していきたい。指導者にとっても、子供にとっても、学校にとってもお互いが WIN－WIN の関係となるべく、その方法について検討していきたい。部活動地域移行を拡大するためには、何よりも指導者の確保と資質の向上が求められる。朝日町柔道協会が中心となって、指導者間の横のつながりを強化するとともに、若手指導者の育成も力を入れることが必要となる。

また、朝日中学校を核として、「柔道の町 朝日」を地域に浸透させることにより、保護者にとっては安心して子供を預けられるように、子供にとっては柔道をするのが楽しくてたまらなくなるように、組織作りや指導者育成に注力していきたい。

（米田 豊）



小中学生合同の稽古

(3) 滑川柔道スポーツ少年団

柔道を楽しく体験 それを生涯につなげる

1 スポーツ少年団の概要

本スポーツ少年団は、昭和 33 年に滑川市民道場が竣工され、柔道人口の拡大と指導者の育成を目指し少年柔道教室が開かれ、それが元となり現在まで続いている。過去には、県大会等で上位入賞をしたが、少子化とともに柔道をやりたいという児童も減り、大会への参加もできない年もあった。現在、今一度、草創期の理念に立ち返り、柔道を楽しみたい、柔道の素晴らしさを一人でも多くの児童に味わわせたいという願いから、体験教室等を開催し、柔道人口の増加に励んでいる。



2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

(1) 体験教室の開催

保護者にとって柔道のイメージは、大変敷居の高いものというイメージがあり、興味があっても入りづらい、どこに連絡すれば良いか分からないなどの意見が聞かれた。来る者を待っていてはだめ、自ら開拓することが大切であるということから、本市体育協会のスポーツ教室で柔道体験会を開催することとした。児童が楽しく活動できるように、柔道着がなくてもできる柔道遊びをメインとして1時間程度数年にわたって開催した。その体験をきっかけに柔道を始めた児童も出てきた。そこで、本格的に「初めての柔道教室」を市内全小学生にチラシを配布し、本スポーツ少年団が主催して柔道の普及に取り組むこととした。現在は年間3回から4回程度、活動は1時間から2時間を目安に、中学生をサポートに付け活動を行っている。参加者は、1回につき4名から6名程度ツ少年団に加入しており、現在、本市スポーツ少年団の人員



(2) 小中連携の環境

草創期の少年柔道教室は、誰もが活動できる柔道教室で、柔道がしたい人は誰でも参加できる環境づくりを目指していた。そのスタイルは、現在でも受け継がれており、指導者の多くが部活動と柔道教室(本スポーツ少年団)の両方で活動をしていた。また、それは、社会人となって、地元で柔道を気軽に楽しみたいと思った時、柔道を楽しめる場所づくりともなる。そうして、指導者として活動している者もたくさんいる。

そのため、本市スポーツ少年団の指導者を各学校の部活動エキスパートとして派遣し、部活動の指導補助を行うとともに、昇段試験の形の指導、休日の中学生の指導も行う体制ができています。また、休日の部活動の活動場所が、本スポーツ少年団と同じ場所であるため、小学生が中学生と練習する機会もあり、小学6年生の中1ギャップといわれるギャップも感じず、そのまま柔道部に入る児童も増えると考えています。



「初めての柔道教室」体験会の様子

(3) 今後の課題

以上のように柔道人口の拡大に取り組んでいるが、小・中学生は各地域の協会やスポーツ少年団の活動の工夫で人を増やすことはできるが、高校へいっても柔道を続けようとする中学生を増やせるかが今後の課題となる。

生涯が続けなければ、本当の意味で柔道人口の拡大につながらない。生涯柔道に関わりたくなるよう、高校や大学の進学も含め、指導者同士の連携をはかり、柔道に関われる環境をつくるのが今後の大きな課題となる。

誰でも、どんな年齢からでも、どんな立場の人でも柔道を体験できる環境があれば、児童や生徒も柔道を身近に感じ、やってみようという気持ちになるのではと考える。

3 これから取り組みたいこと

中学校の部活動で人気のある部活動は、すぐに活動できる卓球やバドミントン、そして、道具がボールだけのサッカーやバスケットボールである。それぞれ、遊び感覚で、難しい動作もなく、ゲームの中で動きを学び、動きをよりよくするために技術を高める、そして、ゲームで楽しむことができ、楽しむことで充実感も味わえるので人気があるのも頷ける。柔道は、どうだろうか。

武道なので、楽しむというより修行するというイメージが強く、難しい、楽しくない、活動量が少ないというイメージがある。今後は、柔道を効率よく、楽しみながら、初めての人にも柔道を体験できる指導方法を考え、楽しさの中にも柔道の大事な要素が習得でき、武道のかっこよさを伝えることができる指導に取り組んでいきたい。その中で、自主的に自由な発想で活動できる児童や生徒を育てていきたい。

(山谷大有)

(4) 上市町柔道スポーツ少年団

小学生と中学生が共存して活動いる道場

1 スポーツ少年団の概要

昭和56年頃から加藤景（あきら）先生や黒沢栄光（たかみつ）先生を中心に火・木・土の週3回上市町武道館で始まり平成の始め頃に一旦途絶えたが平成8年に野崎幸雄先生と深川勇が指導者となり水橋錬成館の力を借り活動開始をする。現在は深川勇が代表をつとめ向吉嗣先生や晴被武司先生を中心に火・木・金の週3回行っている。

現在は、小学生（男子11名、女子8名）が毎週火・木・金曜日（19時30分～20時50分）活動していて少年団の団員ではないが中学生（男子7名、女子4名）も同じ道場内で活動しています。

指導者は4名で、最低でも2～3名常に指導できるようにしている。また、県内外の大会や練習会には積極的に参加している。競技成績は団体では新川地区大会優勝・楠杯高学年の部優勝。

2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

- ・柔道の魅力や教室の開催を周知するため父兄や指導者の口コミはもちろん少年団募集のチラシを作り上市町の各小学校のパンフレット等の置き場や飲食店・スーパー・接骨院等にお願しチラシを置かせて頂き入門の方法がわからない生徒や体を動かす習慣のない生徒に一枚でも多くわたるように活動している。
- ・保護者に活動日程や日誌の記録当番、試合や柔道教室の集合時間等の連絡は指導者と保護者会会長他役員と話し合い保護者会会長がグループラインを使い保護者をまとめている。
- ・町の柔道協会の会員数が少ない中、指導者登録の資格を持っていても仕事等が忙しいとの理由で指導者の確保が難しいため、普段の練習に参加協力していただける保護者にスキルアップを行い昇段試験の受験や少年団のスタートコーチの資格を取って頂き指導者の育成を行っている。
- ・練習以外にも中学生参加型のバーベキュー、クリスマス会、親睦会を企画し指導者・生徒・父兄の三位一体に力を入れ団結力の強化を図っている。
- ・嘉納師範の遺訓を柔らかくしたもので「五つの誓い」（柔道を真剣に学ぶ事・強い体を作る事・強い心を作る事・礼儀を守る事・下級生の面倒を見る事）を唱和をしてから練習を開始している。
- ・練習内容の工夫（SAQやコーディネーショントレーニングを遊び感覚で行っています。上手に動けるようになってくると自分達で動きの難易度を上げ楽しんで練習に励んでいます。
- ・上市町武道館柔道場側の壁に全柔連や講道館が取り組んでいることのポスターのほかに小中学生に一年の目標（1. 柔道の目標、2. 学校の目標、3. 自宅での目標）を一人ひとりに書いてもらったものを上市町教育委員会の許可を得て貼っています。

一年の目標を一枚コピーしたものを父兄に渡し自宅で生徒がふだん目につくところに張るようにしています。

- ・柔道場横にあるホワイトボードに少年団入団までの流れや柔道衣購入時に分かりやすいように柔道衣の規格、全柔連から発行している「柔道に安全指導」など誰でも見れるように掲示しています。
- ・熱中症対策として父兄に生徒が持つてくる水筒に水やお茶ではなくスポーツドリンクを入れるように指示をし夏場はエアコンを入れ定期的に水分補給も行っています。また、ケガをして治療した際には保険の手続き等をわかりやすく説明し行っています。



帯取り鬼ごっこ

内容：30秒以内に尾の帯をとる。



3 今後、取り組みたいこと

- ・父兄指導者か自分の子供が卒業したと同時に現場の指導をやめていくのを生徒が卒業しても現場に残って指導者をしていただくような形を作っていきたい。
- ・卒業生が柔道を続けているいない関係なく少年団の練習やイベント等に気軽に顔を出せる環境、居場所を作って行き人が集まる活気ある道場にしていきたい。

（深川 勇）

(5) 富山市柔道協会「木曜練習会」

国籍、性別、経験を問わず柔道を楽しめます

1 練習会の概要

平成初期に浅生山実先生が、当時県警師範であった川口慶和先生を通じて、旧富山警察署（現在、NHK新施設建設中）6階武道場の使用許可を得て「柔道教室」を開設したのが活動の始まりである。

しかし、富山警察署武道場は、大事件等が発生すると使用不能となることから、県営武道館への会場変更を余儀なくされた。富山武道館の使用は有料であることから、平成15年頃までは受講者からの月謝徴収という方法を取っていた。市柔道協会の総会で「県営富山武道館に試合場3面を有する柔道場があるのに、富山市柔道協会で練習会場が確保できないのか？」という意見が出て、平成16年の山地隆雄会長時代から厳しい協会財政の中、使用料を捻出し、参加者の負担なしの練習会が始まり、現在まで続いている。当初は、「木曜練習会」のみの開催であったが、土曜日にも1面使用可能であったことから、中学生を中心とした「土曜練習会」も開催している。

指導体制は、「木曜練習会」の創始者であった浅生山実先生、故柴草清治先生、その後は、岡本啓先生、松田賢司が中心となって活動している。また、日頃の練習会には、会長であった川口慶和先生、副会長の北見敏明先生、現会長の楠一雄先生、竹田聡も毎回のように参加し指導に携わるとともに、中学生、高校生といっしょに乱取りに参加して汗を流している。



2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

- ・木曜練習会の参加物は、主に富山市在住の一般・高校生・中学生・小学生であるが、練習してくれる相手がたくさんいることから、他市町から参加するものもある。練習会参加者には、スポーツ保険には入っているが、「参加料金の徴収なし」で実施していることが魅力の一つ(?)にもなっている。
- ・一般参加者の特徴としては、県庁・市役所の職員、県外から富山に転勤してきた会社員、縁あって富山市在住となった外国人、子供の送迎を期に自分も柔道をするようになった保護者も何人もいる。また、「形競技大会」や昇段審査に向けて「形」を練習しにくる方や、県民体育大会に向け短期間の強化練習に参加する柔道愛好家など、参加する目的は様々である。
- ・自己強化のために、JRでの帰宅時間ぎりぎりまで練習に励む高校生や高専大会に向けての強化のため参加する高専生もいる。また、市内の中学校（大沢野・水橋・堀川・速星・呉羽中など）や市外の中学校（小杉中など）に在学し部活終了後にさらに練習会に参加する者もいる。これらの練習の成果として、「木曜練習会」開設の初期から現在に至るまで、インターハイや全中大会に出場する選手を数多く輩出してきた。今後も柔道愛好家の要望などに応えられるような練習会にしていきたい。



激しい練習風景



コンボの指導者との交流 (H28)

3 これから取り組みたいこと

- ・柔道人口拡大のためには、小学生だった子供たちが、中学・高校・一般になっても「柔道が出来る場所!」として「木曜練習会」を引続き利用してくれるようになり、また、「木曜練習会」に参加した中学生・高校生が一般社会人となって子供を連れて柔道に参加してくれるように、さらに参加しやすい練習環境となるようにしていきたい。

(松田健司、竹田 聡)

(6) 錬成塾

柔道人口拡大、魅力発信への取り組み

1 スポーツ少年団の概要

当団体の前身は富山県護国神社で『富山県錬成館』として昭和14年9月15日に活動を開始している。その後平成4年に堀川小泉の公民館4階柔道場に拠点を移し、『富山市錬成館』として活動を続けた。その後、公民館の老朽化に伴い、平成28年4月より堀川中学校の柔道場に活動拠点を移動し、団体名称を『錬成塾』に変更し現在に至る。

活動内容は週3日間（月、水、土）で、未就学児から小学生、中学生、高校生、社会人と幅広く所属しており、小学生以下は16名（男子8名、女子8名、未就学児3名を含む）、中学生は8名（男子7名、女子1名）が在籍している。

指導は高見敏典八段の下で複数の指導者で指導を行い、児童の保護者で柔道経験のある方にも積極的に子供たちの指導に協力して頂いている。

過去には多数の全国大会出場者を輩出しており、令和3年度には日整全国柔道大会に5年生の代表で1名が出場している。また当団体の卒業生は中学、高校でも活躍しており、多数の全国大会出場者を輩出している。



2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

(1) 人口拡大に関する取り組み

当団体では未就学児から社会人まで幅広く門戸を開き、入門の希望があれば老若男女問わず受け入れている。人口拡大についての取り組みとしては、底辺各大の為に入門生募集のポスターを作成し、関係者や保護者に掲示を協力頂き、関係各所の掲示して頂いている。また、SNSでの発信も積極的に行っており、フェイスブックを利用して活動内容の発信や、入門生の募集等を行っており、SNSで視聴されたご家族が見学に訪れるなど、SNSでの発信は一定の効果が確認できている。

(2) 柔道の魅力発信について

少年柔道では礼法、受け身、体捌きなど基本動作に重点を置いて指導を進めている。試合の勝敗もスポーツの醍醐味の一つではあるが、勝敗だけではなく多面的に柔道の魅力に気がついてもらえるよう配慮しながら指導を行っている。

その取り組みの一つとして形稽古を積極的に取り入れている。形競技会参加に向けての投の形に始まり、精力善用国民体育の形、固の形など児童全員が何らかの形を習得できるよう指導を進めている。毎年稽古始めの時には様々な形の演武を披露する場を設けており、稽古始めの形演武に向けて年末から形の稽古に重点を置いて進めている。稽古の終了間際には形の演武を行わせるなど披露する場を多く設ける事で、形に興味を示す児童も出てきており、取り組みに効果が出てきている。また、形を通して技の理合いや基本技術の習得にもつながっている。保護者や関係者にも様々な形を見てもらう機会となっており、柔道の魅力発信の一つとなっていると考える。



精力善用国民体育演武風景

3 これから取り組みたいこと

現在、小学生と中学生は時間帯を分けて活動をしているが、現在は試験的に活動時間が重複する形態で稽古を行っている。今後中学校の部活動が地域での活動に移行していくことを踏まえて、中学生の部活動の受け皿として活動できるよう稽古の形も含めて検討していきたい。また、形稽古を通して正しい柔道と青少年の健全育成に継続して取り組んでいきたい。

(杉森雅樹)

(7) 県営富山武道館

子どもたちの成長に合わせた指導で更なるステージに繋げる

1 スポーツ少年団の概要

昭和 47 年に、地域における武道の普及・振興・コミュニティーの場として県営富山武道館が建てられ、同時に細川秀雄、本木貞典、山内利光、楠一雄の各先生を中心に、柔道に親しみ・交流を深め・喜びや楽しさを体験できる場（教室）ということで活動が始まった。

平成 15 年頃より、市町村合併や指定管理者制度の関係もあり、（公財）富山市体育協会が自主事業として、「武道学園」を開催する。



本部（県営富山武道館）の他、富山市内にある北部錬成館、水橋錬成館でも柔道教室を開催。

この頃より、武道館では岡本賢治が「体力づくり」「精神づくり」「知力」の三本柱を指導方針に定め指導にあたる。

小学生「少年・少女柔道教室」は、週 2 回 2 時間程度 50 ～ 60 名が稽古に参加し、就学前の年少～年長児「ちびっこ柔道教室」では、週 1 回 1 時間程度 15 名前後が汗を流している。指導者は、男性・女性を常に配置するように心掛け、ローテーションを組んで指導に当たっている。

また、中・高等学校に柔道部がない生徒や初段取得を目指している生徒、部活動以外にプラスα稽古したい生徒、並びに、柔道をやってみたいという意欲のあるご父兄にも、週 2 回 1 時間程度活動できる場を設けている。

なお、少年柔道教室では、普及のみならず、勝負の厳しさも同時に経験を積み、富山県大会では、平成 26・27・28・29 年と団体 4 連覇、準優勝・3 位多数。全国大会では、平成 25 年第 22 回文部科学大臣杯争奪全国少年柔道大会 団体全国 3 位（富山県では 15 年ぶりの入賞の快挙）、平成 26 年第 34 回全国少年柔道大会 団体予選リーグ（1 位）全国ベスト 16・個人 6 年生の部全国 3 位、平成 27 年第 35 回全国少年柔道大会 団体予選リーグ（3 位）敗退、平成 28 年第 36 回全国少年柔道大会 団体予選リーグ（1 位）全国ベスト 16、平成 29 年第 37 回全国少年柔道大会 団体予選リーグ（2 位）と輝かしい記録を残している。

道場卒業生は、ネクストステージである中学・高校・大学・実業団等の全国大会での更なる活躍を目指している。

2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

柔道教室（小学・幼児）では、毎月「柔道たより」を作成し、保護者・子供たちに様々な情報を発信している。行事予定や稽古の日程はもちろん、柔道豆知識や先生からの一言（アドバイス）など様々な情報をランダムに発信している。保護者の皆さんからはたいへん好評である。

また、例年年度初めに、生徒募集チラシを作成し市役所を通して、近郊の小学校に配布している。近郊の幼稚園・保育所には、直接配りに行っている。

練習内容としては、小学生週2回2時間中の半分は、準備体操・コーディネーショントレーニング・柔道あそびを取り入れている。子供たちは飽きやすいので、マンネリ化しない練習メニュー作成が必要で、そこに力を入れている。未就学児の練習は、週一回1時間でそのほとんどが準備体操・あそびで、最後に

少しだけ柔道（先生を投げる）をするという内容です。みんな楽しんで身体を動かしており、ほとんどの子が小学生・中学生と柔道を続けています。

3 これから取り組みたいこと

やはり柔道は、社会に貢献してこそ意味があるものになると考えております。柔道で培った体力や精神・知識で、奉仕活動に積極的に参加するほか、高齢の方など困っている人の役に立つような行事を企画していきたいと考えています。まずは、地域のクリーン作戦・溝掃除などからと徐々に始めています。

また、柔道の素晴らしさ・魅力を後世に伝承していくためにも、道場卒業生が柔道指導に協力できる環境を整え、柔道に関わっていく人、少年柔道の指導者、様々な世代と柔道を通して関わる人材を増やして行きたいと考えます。二世代・三世代、今では長寿なので、四世代と一緒に柔道を楽しめる「生涯柔道」が出来る環境を整えていきたいと考えています。(岡本賢治)

[illegible]

柔道たより



県営富山武道館 夏のクリーン大作戦

(8) 水橋錬成館

子供達のための柔道

1 スポーツ少年団の概要

富山市水橋地区を拠点に1967年（昭和42年）に水橋館町で創設され、当時は故高木明先生、堀田義雄先生、野村一郎先生、新夕清一先生らを中心に、心も体も強く鍛え、礼儀作法も身につく柔道の良さを知ってもらいたいという思いをもとに指導が行われていました。現在は2006年（平成18年）に水橋辻ヶ堂に水橋地区センター内に併設された道場にて活動場所を移し、未就学児2名（男子2名）、小学生18名（男子14名、女子4名）が週3回（木曜日19:30～21:00、土曜日14:30～17:00、日曜日9:00～11:30）活動しています。現在の指導には代表の新夕清一先生のもと、鷹取祐司先生、鷹取慎也を中心に約10名が携わり、常時3名以上が低学年、高学年に分かれ指導しています。平日の木曜日は先生が少ない時もありますが土日は多くの先生達により指導を行っています。練習には中学生、一般の方も参加しています。



水橋錬成館のここ数年の主な戦績は団体戦では第28回若獅子青少年大会で優勝しています。近年は個人でも県大会優勝選手や全国大会に出場する選手を輩出しております。また、毎年行われている日整全国少年柔道形競技大会富山県大会に積極的に参加し続けています。

2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

一般的な柔道の「痛い、つらい、こわい、危険…」などのイメージもあり近年の柔道離れは著しく、とにかく、子ども達に柔道に興味をもってもらいたい、柔道を好きになって長く続けてほしいという思いが強いです。そのためにまず、柔道の練習は厳しくつらいというイメージをとにかく変えたいと思いました。子供達の指導で心掛けていることの一つは指導する先生は子供目線の指導を心掛けることです。つつい声を荒げてしまいがちですがそれにより子供の練習意欲がそがれないよう気を付けています。そしてとにかくほめる。ほめることにより子供たちはうれしくなり自信をもつことができ、もっとほめられたいという思いにより練習をがんばるという、良い循環が生まれます。練習内容ではゲーム感覚の楽しいものを取り入れたり、競争意欲を掻き立てる言葉を選んだりして子供たちがこちらに目を向けられるよう努めています。

毎年、年初めに「新年の目標、目標のために頑張ること」を一人ひとり考えてそれを道場の壁に貼り、1年を通して目標を立てることも練習意欲を掻き立てる一つになっています。

また、親御さんには柔道を通して礼儀作法、精神・身体の鍛錬、受け身の習得により身を守る術が身につく等、柔道の良い点を理解していただくことで安心して先生達に子供達をあずけていただいています。

当道場の指導に携わって下さる先生は当道場の出身者であったり、自分の子どもが道場に通っていてそのまま自分も指導に携わっていただいている方が多いです。将来、指導した生徒が通っていた道場に戻ってきて指導者になるということがあれば指導者冥利につきますし、戻ってきて指導したいと思えるような道場を目指すことも柔道人口拡大への一つの道ではないかと思えます。

指導者間での指導方法等を共通理解してもらうために練習後によく話し合いが行われています。いろんな目線からの意見を取り入れて、より良い指導方法や新しい取り組み等のアイデアを出し合ったりします。



稽古納め時の雑巾掛け競争

3 これから取り組みたいこと

未就学児の勧誘に力を入れていきたいと思っています。もし可能であれば保育所や幼稚園を訪れて、柔道の楽しさを子供達に伝えられたら底辺拡大にも繋がるかと思います。マット等を用意して実際に技を披露したり、安全面に注意をはらいながら、受け身の練習やマット運動を子供達にさせてみたりすれば興味を持ってくれるのではないかと思います。

道場内では柔道以外のスポーツから練習を取り入れて従来の柔道の練習に拘らず柔軟な考えで子供達を飽きさせないような工夫していかなければならないと思っています。

（鷹取慎也）

(9) きょうえいじゅくやわらどうじょう 共栄塾柔道場

柔道から学ぶ心とからだづくり

1 スポーツ少年団の概要

1986（昭和61）年頃から富山市婦中町（旧婦負郡婦中町）において師範 故中田勉先生が柔道を通じて地域の子どもの育成を目的に道場を設立。柔道創始者 嘉納治五郎先生が指針として掲げた「精力善用」「自他共栄」の言葉から、「共栄」の言葉をいただき「共栄塾柔道場」が誕生した。1989（平成元）年第9回全国少年柔道富山県大会で初優勝し、その後1996（平成8）年全国少年柔道練成大会で全国優勝を果たす。

2012（平成24）年に道場を閉館したが門下生により2017（平成29）年より名称を「共栄塾柔道場」に改め、道場再開を果たす。

現在小学生（男子30名、女子8名）、園児（男子2名、女子2名）42名在籍。

毎週月・火・木・金（18時30分～20時30分）土・祝日（8時30分～10時30分）、水曜日、日曜日（休み）。指導者12名（B指導者5名、C指導者7名）。指導者は常時2名以上で指導に当たるようにしている。

2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

- ・ 道場創始者の故中田先生から「基礎練習を重んじて身体を作り、子ども達が怪我をしないで家に帰すことを一番大切にするように」との教えをいただき、道場の信念としている。子どもたちが生涯に渡って柔道を楽しめるように、小学校段階の子どもたちには柔道が楽しい、柔道場へ来ると元気が出る、学校の外にも多くの仲間がいるという感覚を味わってもらいたいと考えている。

そのためにも、練習内容のメニューがきついものだけではなく、ゲーム感覚でできるものなどを織り交ぜている。まずは道場に来ている子どもひとりひとりが「柔道が楽しい、道場へ行きたい」という気持ちを持つことが、柔道ファンを増やすこととなり、ひいては柔道の魅力発信、人口拡大につながっていく一番の底力だと考えている。



- ・ 上記の基礎練習と同様に、子どもも指導者も含めて、大きな声で挨拶をすることを指導している。今後、子どもたちが社会に出ていく時にも人と人との繋がりはとても大切であり、その基本的な姿勢としての挨拶は大切なコミュニケーションスキルである。子ども自身や、子どもの保護者や周りの人達が、柔道を学ぶことで柔道の技術だけではなく、心も成長し、豊かな人間性をはぐくむことができると実感できれば柔道の魅力となっていく。

3 指導者の確保などについて

①新しい指導者の発掘

- ・入門した子どもの保護者が柔道経験者の場合、道場の基本理念や指導方針を説明し、賛同頂ける方に指導に入って頂く。
- ・指導の協力を依頼する上で、練習日のシフトの押しつけはしない。
- ・道場の練習には、指導者が2名以上入る。その内1名は必ず道場のOBが入ることとし、OB以外の指導者が安心して指導に入ってもらえるようにしている。
- ・多様化の時代に対応できるよう、共栄塾ならびに他道場での経験を積んできた若い指導者の意見や思いを傾聴し、積極的に練習に取り入れる。

②常に指導者が数名いるように、ローテーションを組む工夫

- ・指導者の仕事や立場、家庭等の状況を常に念頭に置き、道場での指導が大きな負担にならないように、指導者を曜日や週で固定するような当番制にせず、指導者が各自指導に入れる日を決めてもらう。
- ・シフトを決める際、若い指導者などの特定の指導者に偏った負担が行くことのないようにしている。

③指導者間での共通理解方法

- ・指導に入る際に、前回指導した内容や生徒の様子などを確認している。入る指導者によって練習内容は工夫してもらい、子どもにとってプラスになったと感じられる内容は伝達する。

④指導者間の連携を深める方法など

- ・指導者間で生徒の様子や調子の確認を行い、けがやトラブルがあった場合、すぐに代表に連絡することを徹底している。
- ・前回の練習で上手くできた点、失敗した点、新しくやったことなどの共有をする。
- ・指導者講習会に参加した指導者が、道場で伝達講習を行い、指導者全体にフィードバックしている。（自身の指導者としての在り方、心構え確認、意見交換）
- ・若い世代により積極的に参画してもらえる道場を目指すため、時代の変化に対応できる強い団体である事を指導者に伝えている。
- ・道場の活動を多くの方に知って頂くためにホームページおよびFacebookを作成した。道場がどんな団体なのか気軽に閲覧してもらえるようにしている。
- ・生徒募集のカラーポスターを作製した。道場の雰囲気や伝わりやすいように写真を入れ、検索しやすいようにQRコードを記載した。
- ・見学は常時受け入れている。見学に来られた際には、きっかけや要望を伺い、入会案内のプリントを用いて子ども、保護者に柔道の魅力や道場の特色について説明している。



4 これから取り組みたいこと

- ・地域の社会貢献（清掃や地域のお手伝い等）
- ・子どもたちや保護者がメンタルトレーニング、栄養学を学ぶ場をつくる。
- ・柔道だけにとらわれず、ほかのスポーツなどの要素も取り入れたイベントなども実施する。
- ・遊びを通じたからだづくりや運動についての指導の実践を取り入れていく。
- ・指導者の育成、学びの場を充実させ、講習会等を定期的の実施していく。
- ・道場のホームページをより活発で充実した内容にしていく。
- ・ポスター掲載をしていただける協力者の依頼も多方面にしていく。

（藤井大輔）

(10) 柔心会

常勝軍団 柔心会

1 スポーツ少年団の概要

- ・2015（平成 27）年頃から、丸池徹先生や立花直人先生を中心に、『柔道を通じて心と身体をきたえよう』の方針の元に、国際付属高等学校を練習会場として活動が始まった。第 38・第 39 回全国少年柔道大会富山県大会で優勝して、全国大会に団体出場した。個人でも各県大会で優勝して、全国大会に出場した。
- ・現在は、園児 2 名、小学生 22 名（男子 11 名、女子 11 名）の計 24 名が毎週月・水・金曜日（19 時～21 時）、呉羽中学校武道場で活動している。また、週末は公園などでトレーニング（冬季は体育館内）を行っている。



2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

- ・柔道の魅力を発信するため、チラシを作成して団員の小学校や保育園などに団員募集のチラシを配布している。
- ・チラシ作成について、団員の声、大会の成績、理念や方針、目標、体験教室の案内などを載せたりしている。
- ・柔心会の魅力発信するため、指導者や役員が SNS などでのいろいろな活動を行っていることを載せたりしている。
- ・柔道以外の活動について、兄妹や同級生を BBQ や餅つき大会などのイベントに参加してもらい、柔道の魅力を発信している。
- ・柔道ノートを記入している。大会や合同練習会などの後、指導者と個人目標など当面の練習内容や取り組み方を工夫して、柔道ノートを交換している。
- ・柔道を通じて、挨拶や返事、感謝等を当たり前のことを当たり前に出来るよう常識人としての人間形成を目指し日々、練習に励んでいる。
- ・親子で参加できる、クリスマス会などに参加してもらい、未経験者の保護者でも柔道の魅力を発信している。
- ・コロナ渦で柔道場施設の利用など困難な為、公園などで基礎体力の向上を目指し、屋外でトレーニングしたりしている。



楽しいトレーニング

3 これから取り組みたいこと

- ・チラシやポスターを作成して、小学校に配布や掲示、町内の回覧板などによる回覧、地域新聞に公告を出したい。
- ・HP を作成して、HP に団員募集ページ作成したい。
- ・小学→中学→高校と継続して柔道を続けてもらうために、上の学年が下の学年を指導するという機会が多くあればよいと思う。このため、中学生が日頃の練習や合同練習会などに参加しやす練習環境を作りたい。
- ・小学校の体育の授業などに柔道（マット運動、受け身など）を取り込んでもらいたい。

（立花直人、関原浩一）

(11) 高岡市柔道連盟

未来の子供たちのために、熱き思いをつなぐ

1 概要

〈高岡市スポーツ少年団柔道部会〉

昭和 60 年にスポーツ少年団本部長であった塩谷孝一氏、高岡市柔道連盟会長の島田孝先生らにより、市連盟の強化普及には小学生を主体とするスポーツ少年団活動による底辺拡大以外になし、との信念の元、高岡市スポーツ少年団柔道部会の発足が提案された。翌昭和 61 年に原田興次氏を会長とする柔道部会が発足し、10 の単位団による第 1 回秋季錬成大会が開催されるなど、活発な活動をしてきた。

柔道部会は、強化練習会を毎年続ける一方で、山下泰裕、田村亮子、谷本歩実、井上康生の各先生方など、全国のトップ選手、指導者を招聘し資質の向上に努めてきた。日本武道館でオープン参加できる少年大会に参加し、前日はディズニーランドで楽しむというバス旅行も行ってきた。しかし、近年徐々に柔道を志す子供が減少し、多くのチームで団体戦に出場できなくなるという寂しい状況になってきた。

〈健心会〉

高岡市柔道連盟では、県営高岡武道館の柔道場で、平成 13 年 6 月に故江嵐賢治先生が選手強化を目的とした練習会の必要性を説かれ、「健心会」という名称で週 2 回（月・水）午後 7 時～9 時に、小学生、中学生、一般までが参加する定期的な練習会を開催している。多い時には、100 名を超える市内外の小中高生や一般の柔道愛好家が集まり汗を流している。

2 柔道人口の拡大を目指した活動

① 『土曜っ子スポーツチャレンジ』（高岡市体育協会主催事業）

高岡市体育協会では、運動やスポーツを好きな子供を育成することを目的に、小学生約 60 名を募集し、いろんな運動にチャレンジ・体験できる『土曜っ子スポーツチャレンジ』という事業を春夏秋冬の各季節に 2 回実施している。

市柔道連盟では、平成 22 年度からこの事業に参加させてもらい冬期の部「道具を使った運動と身を守る運動」で 2 回（12 月の土曜日午前中）に「はじめて習う柔道」と同じような内容の教室を実施している。柔道の礼法や受け身の基礎などを子供たちに教え、柔道を習おうという子供の発掘に努めている。高岡龍谷高校の柔道部の生徒にも協力いただき、子供たちが高校生を投げるという体験もできるようにしている。

この事業は回数が 2 回と少ないので、スポーツ少年団で柔道を始めようという意欲を持たせるまで指導することはなかなか難しいことですが、今年度はこの活動後に 3 名の子供が柔道スポーツ少年団に加入するというたいへん嬉しい成果がある。

② 「はじめて習う柔道」（高岡市体育協会助成事業）

高岡市柔道連盟では、平成 24 年より高岡市体育協会加盟団体事業助成事業の 8 万円の補助金を活用し、夏休み期間中に 6 日間『はじめて習う柔道』を実施している。対象は、年中児から小学校 6 年生まで、担当する複数の指導者が園児児童の指導に手が届く約 20 名を定員としている。開催時間は、保護者が送迎などしやすい午後 5 時半より 7 時の時間帯としている。

参加者を募集するために、毎年大型のポスターを作成し市教育委員会にお願いし、幼稚園、保育園、小学校に掲示していただけるようお願いしている。その年によっては、小学校 3 校くらいを選び全校生徒にチラシを配布している。市内の全校生徒に配布しないのは、20 名以上の児童になると現状の指導者数では目が行き届かなくなり、安全面、指導の効果が得られなくなるためである。多く児童を集めた教室が開催できるだけの指導者がいないのが残念である。

参加者には、6 回の練習期間中は柔道着を無償で貸与し、6 回以降も続けて活動する子供には購入価格で柔道着を譲る。毎年 15 名

高岡市柔道連盟主催 少年柔道教室 【はじめて習う柔道】
平成24年7月より夏休み期間中に実施する。初年度は1名で始まったが7回連続で早く
習得した児童は2名、25年度は2名、26年度は20名、27年度は40名、28年度、29年度、30年度
は小学校に生計転入の児童を生み25名の増加となりました。多くの保護者が参加を続けています。
おもに指導者として、和道主将、小川健次、鈴木健治、高木健治の先生方と、内閣二です。

**気合一本！
柔道**

夏に鍛える はじめて習う柔道

どき	7月18日（土曜日）～8月29日（日）	午後5時30分～7時
会場	高岡武道館	毎週土曜日（6回）
定員	12名（申し込み順）	対象学年（年中児～小学6年）
費用	男女別1名1万円	

持ち物 柔道着は無料で貸し出し、貸与料 保険料1000円
申込 7月2日までに保険料を添えて市民体育館へ
募集 休日を申込時に申告下さい。
連絡先 高岡市体育協会 市民体育館内 電話 0766-26-5225
発行責任者 高岡市スポーツ少年団柔道部会 理事長 内閣二

前後の参加者が有り、そのうち8割くらいが市内の各スポーツ少年団に入団してくれている。

活動の半分は、礼の仕方や運動あそび、体幹運動である。特に小学生低学年は回転運動の側転ができると大変喜んでいる。学校の体育の時間にヒーローになれたと言ってきた子供もいる。後は受け身と寝技の基礎的な指導をしている。

8年間「はじめて習う柔道」を開催してきましたが、この取り組みの中からスポーツ少年団員となり、全国小学生大会の出場者や県チャンピオンになる児童も出ている。

③ 中学校の柔道部

スポーツ少年団で頑張ってくれた子供たちを中学校で続けさせるのはなかなか大変なことで、近年は市内中学校の柔道部に入部する柔道未経験者は、20人程度である。そのような中、令和3年度は30名を超える未経験者が入部してくれ、大変うれしく思う次第である。

今年度、中学で初めて柔道を始めた1年生に柔道の精神である「精力善用」「自他共栄」や柔道の歴史、礼法の大切さなどを学んでほしく、指導教本の抜粋版を作り、配布している。

柔道部のない中学校が増えていることから、そのような中学校の生徒も柔道ができるように、高岡市柔道連盟で全柔連登録、スポーツ安全保険の加入手続きも行っている。

現在の柔道指導者は、接骨院勤務が多く土曜日や夜間練習に協力をお願いしにくい状況にある。また、教員の働き方改革により中学校部活動も大きく変わろうとしている。これからは、若い指導者の確保が急務と思われる。

④ 中学校部活動の地域移行「土曜健心会」の開催

高岡市教育委員会では、国の研究指定を受け、休日部活動の高岡モデルの構築に向け、12競技で地域スポーツクラブへの移行を目指した取り組みがはじまったところである。

高岡市柔道連盟としても、令和3年よりこの地域スポーツクラブへの移行の取り組みとして、中学生のための合同練習会を「土曜健心会」と称し、新たな事業として始めている。「土曜健心会」の活動は、毎週午前9時～11時30分まで県営高岡武道館に集まって技や形の講習を受け、乱取稽古もするというもので、市内の8校（12校中）の生徒が参加している。生徒は友達も多くでき、いつもと違う友達と練習ができるのではりきって練習に取り組んでいる。

指導者として、市柔道連盟の藤田真郎、松浦士朗、高木俊作、岩城裕之の各先生と、私、内河健二の5名が携わる他、高岡龍谷高校柔道部の生徒も練習に参加し中学生の指導に協力をいただいている。通常の練習のほかに、昇級審査、昇段審査会の前には形の講習会なども実施している。

さらに、向上心のある生徒は、保護者の同意を得て、市柔道連盟の健心会（夜間練習）にも参加している。



はじめて習う柔道



中学生の健心会

3 今後、取り組みたいこと

- ・高校で柔道を継続する生徒を確保するためには、中学生と高校生がいっしょに活動する練習会や交流大会などを多くすることが効果的であると考えている。このような機会をできるだけ設けられるように、行事や練習日程を工夫していきたい。
- ・週1回の休日練習だけでは、競技力の向上がある程度しか望めないことから、回数を増やすことや練習形態などを検討していきたい。
- ・指導者として子供たちを指導する前に、審判員資格の取得をお願いしている。市柔道連盟では、そのために必要な受講料と審判服購入費の全額負担をしており、今後とも継続していきたい。
- ・指導者に謝金等の費用弁償ができることが理想的であるが、その費用は団体・組織が捻出するのか、受益者負担として生徒の保護者から集めるのか。また、スイミングクラブ等のような高額な負担を求めることができるのか。などについて検討していきたい。
- ・これまでの柔道は、各中学校（道場）の練習として保護者へ浸透し、理解を得ている。これからは、新たな中学校柔道のクラブチーム化の考えが、保護者の理解が得られるようにしたい。（内河健二）

(12) 中田柔道スポーツ少年団

楽しむこと大切に長く柔道続ける

1 スポーツ少年団の概要

昭和 59 年 4 月に内河健二先生、土倉真一が中心となり、中田から柔道人口を増やすことを目的に発足しました。それまでは、鍊心館篠原道場がありましたが、門下生が少なくなっていたため、スポーツ少年団として再出発をしました。

現在の団員数は 24（男 14、女 10）名で、活動場所は中田中学校格技場で毎週 2 回、水曜日は午後 6 時 15 分から 7 時 30 分、日曜日は午前 7 時 30 分から 9 時で練習している。日曜日の練習時間を朝早く設定しているのは、練習後に家族での外出等をしやすくするためです。

現在は、松浦士朗先生、荻布徹就先生も指導に加わり毎回 4 人の指導者で練習を行っています。

卒団員の中には、全中大会出場、インターハイ入賞者を輩出しており、他にも大学、社会人で続けている者もいます。タイトル通り長く柔道続けている者もたくさんいます。高岡市少年部会に所属しており市内大会や県内大会に積極的に参加しています。



投げ込み練習

2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

毎年 4 月には、中田小学校で全児童に対しスポーツ少年団の入会案内を配布して戴き団員の取りまとめをおこなっています。

中田地区は範囲が狭いために、顔見知りも多く直接親子さんに声をかけ入団を呼びかけています。市で行われている「はじめて習う柔道」からも数名入門してきます。

昨年 4 月には、北日本新聞の「元気っ子」の記事にも取材を受け掲載されました。

練習の内容としては、5 分間のかけ足、サーキットトレーニング、打込み（一人打ち込みも含む）、乱取り、寝技を行い、最後には投げ込みをしています。

目標としては技に入るだけでなく最後まで相手を投げることを大切にしていきたいと指導しています。大人の柔道大会になりますが、テレビ放映がある時は、団員に案内し観戦するように勧めています。

合同練習が開催される時は他チームの人と練習が出来る良い機会なので、積極的に参加したいと思います。



鏡開きでぜんざいを食べる子供たち

3 これから取り組みたいこと

現在 4 人の指導者は高齢化しており、若い指導者を早く発掘したいと思います。また、団員の確保することにも頑張りたいと思います。

練習内容としては、ただ漠然と乱取りをするのではなく、目的、目標を持った練習をさせたいと思います。また、さまざまなトレーニング方法などを取り入れ、体のバランスや体幹を鍛えることも大切にしたい練習していきたいと思います。

（土倉真一）

(13) 戸出柔道スポーツ少年団

柔道の発展、人口拡大のために。

1 スポーツ少年団の概要

1972年4月1日頃から、廣川昇先生を中心に戸出中学校柔道場を練習会場として活動が始まった。

理念：柔道を通して、次代を担う青少年の健全なからだところを育てる。

一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する。

方針：他人に感謝の気持ちを持つ「心」を育てる。

子供たち、指導者、保護者が一体となって厳しいだけでなく、楽しみながら「エンジョイ！」をモットーに。

目標：全国大会出場。黒帯をとる。団体戦のメンバー確保、団体での勝利。入賞。

平成2006年には、全国大会に団体出場した。

現在は、小学生12名（全員男子）が毎週火曜日、金曜日（20時～21時）、日曜日（8時～9時30分）活動しています。指導者は6名です。最低2名が常に指導できるようにしています。県内の大会や県外の大会、合同練習、練習試合に積極的に参加しています。

令和3年の成績は、6年生が1人全国大会に出場できました。



群馬県へ遠征

2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

生徒を増やすために、町の行事などに出席した時に小学生を持つ親に積極的に勧誘したり、募集ポスターを町のお店に貼ってもらったりしています。また現在加入している生徒の兄弟や友達を勧誘したりしています。小学校の学習発表会で柔道少年団のブースを設けて、活動を紹介したり、団員募集のポスターを置いて声かけもして積極的に勧誘しています。

指導者を確保するため、入団してきた生徒の親で柔道経験がある方を指導者として勧誘しています。

保護者にも柔道を体験していただき柔道の面白さを理解していただくために、一緒に練習することを勧めました。その結果、柔道経験がなかった方が黒帯を取るまでになった方もおられます。戸出道場では柔道が強くなることばかりではなく、柔道の精神を教えています。道場には嘉納治五郎師範遺訓や精力善用・自他共栄などの言葉を紙に書いて貼ってあります。また、少年団は「感謝」の旗の下、両親に感謝。先生に感謝。仲間感謝。という事を教えています。

練習内容の工夫。最近ではスマホの普及で、スマホで試合の動画を見てどこが悪かったか反省点を見つけて改善するよう指導しています。また、ユーチューブを見て技の研究をしています。

戸出の道場では中学生も一緒に練習しているため、高学年などは強化につながっていると思います。中学生の黒帯に憧れ、中学へ行っても柔道を続けようという気持ちになり、中学→高校へのつなぎにもなっていると思います。

3 これから取り組みたいこと

・団員募集活動を今より積極的にするポスターを今より多く貼ってもらう。

中学1年生（新入生）の勧誘。2、3年生が（男女とも）積極的に声をかけ、柔道の魅力を伝え、部活の見学を一人でも多くしてもらう。最近女子部員が少ないので、女子も入るよう積極的に勧誘する。（女子の先輩がいると安心して入部してくれるのではないかな。）

他の競技や習い事等と掛け持ちをしても続けていけるような環境、システム作り。

柔道経験のある保護者の練習参加を呼びかけ、指導者になってもらうようにする。

・練習試合の企画

県内の道場ともだが、他県の道場とも交流をはかり、いつも試合する相手とは違う相手と練習試合することで、より高い目標を持ってもらう。

・目標を持つ練習

トレーニングでの回数や正確さを意識させる。（例、連続で何回飛べるようになったとか、綺麗な姿勢でできているか等）内外にライバルを作り、ライバルに勝つ！という気持ちを意識させる。

（牧 直樹）



(14) 砺波市柔道スポーツ少年団

S N S 発信と親子ふれあい柔道の推進

1 スポーツ少年団の概要

昭和 41 年に砺波市最初のスポーツ少年団として結成され、出町中学校体育館を練習会場として活動が始まった。その後、河西求先生や八田俊伸先生が中心となり活動が盛んになり、少年団では基本を忠実に行い中学へ進み全国大会や北信越大会へ出場している。

また、向健三先生が高等学校長退職を期にスポーツ少年団の指導に加わり、さらに将来を見越した柔道指導が行われるようになった。スポーツ少年団の子供たちが中学校・高校（全中大会・インターハイ・全国選手権大会など）で活躍する原点となった。

現在は、林洋央先生を中心に指導者ライセンスのある 4 人が「自他共栄」の精神をモットーに小学生 20 名（男子 10 人、女子 10 人）が、毎週月・水・金曜日（19：30～21：00）に柔道の活動を行い、月に 1 度柔道のほかにスポーツ教室も行っている。

指導者は、全員ほぼ毎回参加して指導に当たっているが、参加できない場合は連絡を密に行い、最低でも複数で指導に当たるようにしている。

また、県内や砺波地区の大会・練習会には積極的に参加している。



2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

- ・柔道人口を増やす、減らさないを目的に、SNSを通じて、活動状況や試合での成績などを発信している。また、保護者限定で試合状況等をネットによるLIVE配信をしている。
- ・平成 20 年から、スポーツ少年団と異なった日で活動していた中学生（砺波スポーツクラブ T・RiSE）が同じ日に活動できるようにして、少年と中学生の交流を促進している。これにより、柔道を長く続けられる環境を作るとともに、指導者も相互に助け合い、継続した指導を出来るようにしている。その結果、スポーツ少年団では活躍できなかったが、中学校・高校に進んでから全国大会に出場するという子供たちが出てきた。
- ・保護者全員を対象に実際に子供たちと一緒に柔道を体験してもらう「親子ふれあい柔道教室」を開催し、子供たちの一番のサポーターである保護者に柔道を理解し楽しんでもらえるようにしている。
- ・保護者（母親）の中には、自ら積極的に柔道に取り組み初段を取得して試合にも参加したり、更には指導者ライセンスCを取得し、現在は子供たちに、柔道を指導している保護者もいる。
- ・練習内容は、マニュアル化して指導内容・達成度などを指導者間で共有している。
- ・LINE アプリを利用して、保護者に年間スケジュールや練習日程などを発信している。変更がある場合は、その都度変更したスケジュールなどを発信して保護者との連携を密にしている。



親子ふれあい柔道教室

3 これから取り組みたいこと

- ・今後、コロナ禍が収まり条件が緩和された際には、子供といっしょに保護者にも県外の大会を体験してもらい、親子ともに新たな柔道の目標を見つけてもらえるようにしたい。
- ・子供たちが長く柔道を続け、また仲間を増やすには保護者の理解が絶対必要である。このため、これからも「親子ふれあい柔道教室」を開催し、保護者が柔道に対する理解を深められるようにしていきたい。

（荒井誠一）

(15) 庄川柔道スポーツ少年団

地域にねざす少年柔道

1 スポーツ少年団の概要

- ・昭和 51 年創立、小学 4 年生～ 6 年生を対象として、坂井忠明氏、瀬川和夫氏など庄川柔友会の会員により少年柔道普及のため活動を行う。
- ・平成 9 年石黒淳一が指導者となり、庄川中学校に柔道経験者の顧問が不在だったことから、対象を小学生と中学生を対象とした。
- ・平成 11 年大井一輝も指導者に加わり小学生の監督となる。

現在、小学生 20 名、小学生 10 名 指導者 6 名

(理念) 嘉納師範の教えである「精力善用・自他共栄」の意味を選手に理解させ体現できる人づくり。



2 柔道の魅力発信、人口拡大を目指して

所属する選手・指導者・保護者が最大の魅力発信者であると考えている。

- ① 柔道をやってみたい、こんな子供に自分の子もなってほしいと思わせるために、まず現在所属している選手が、学校や地域で模範となるような選手づくりが大切であると考えている。
- ② ①がしっかりすれば、所属の保護者が PR をしてくれる。
- ③ 指導者自らが地域の行事などに積極的に参加し、人間性をアピールする。
- ④ 地域ボランティアなどに参加し、地域での知名度を向上させる。
- ⑤ 柔道経験のある保護者を柔道指導者になるよう導くなど、チームのファンを増やす。



3 これから取り組みたいこと

- ① 入団者のターゲットとしている地域の拡大を図る。(現在車で 15 分圏内)
- ② 遊びの中で行うトレーニング
- ③ 保護者対象の栄養教室

4 特色ある活動

わくわく柔道教室

庄川小学校 1・2 年生でスポーツ少年団に加入していない子対象の柔道教室

柔道指導者と少年団加入者で未経験者に柔道指導

(石黒淳一)

(16) 小矢部市柔道協会・小矢部柔道スポーツ少年団

総合型クラブなどと連携した「はじめての柔道教室」

1 スポーツ少年団の概要

昭和 56 年に開館した小矢部市武道館を活動の拠点として、石動小学校、大谷小学校などの児童が参加する小矢部柔道スポーツ少年団が、本田勉氏ら市内の柔道愛好家を中心となり、活動を始めた。昭和 57 年からは柔道スポーツ少年団交流大会を開催している。平成 20 年度の第 25 回大会からは会場をクロスランドおやべのホールで開催している。団員数は、多い年には 50 名程いたがその後徐々に減少し、近年は 10 名に満たない年が多い。現在は児童 6 名（男子 5、女子 1）が中嶋秀明会長らの指導の下、週 3 回（火・木・土曜日）2 時間程度練習している。

このように団員が少ないことから、令和 3 年度に柔道人口の拡大させるために、総合型地域スポーツクラブである地元の「NPO 法人おやべスポーツクラブ」が実施している小矢部市委託事業「地域おやべっ子教室推進事業」の仲間に入れてもらい「はじめての柔道教室」に昨年 7 月から取り組み始めたところである。

2 総合型地域スポーツクラブと連携した「はじめての柔道教室」の開催

小矢部市では、柔道教室のチラシなどを小学校を通じて全児童に配布することはできないが、「はじめての柔道教室」は市委託事業であるため、おやべスポーツクラブが募集するスポーツ教室一覧の一つとして掲載されたパンフレットが市内全小学校の児童に配布いただいた。柔道教室があるということを市内の小学生、保護者、教員等に周知する貴重な機会となった。

7 月～11 月まで 10 回（1 回 90 分）の教室に、小学 1・2 年生 9 名の申し込みがあり、全員最後まで参加した。練習内容としては、ゲーム・運動遊び、受け身の基礎を行った。低学年の児童は飽きやすいので毎回内容に工夫を加えた。ここに参加した児童は、次のステップの教室に全員参加している。

この事業では、おやべスポーツクラブから 2 名分の指導者謝金とした約 5 万円支給された。また、市柔道協会が独自に配布しようと考えていたチラシの作成に全面的に協力いただき、印刷業者が作成したようなデザインのものにしていただいた。さらに、小矢部ケーブル TV で放送される動画（5 分間）を撮影・編集いただいた。子供たちが柔道に取り組んでいる様子が市民の方々に知らせることができ、柔道の認知度の向上につながるものと喜んでいる。なお、この動画は、You Tube「おやべスポーツクラブ」で検索すると視聴できます。



さまざまな運動あそび

3 スポーツ少年団と連携した「はじめての柔道教室（20 回シリーズ）」の開催

前述の教室終了後、日本スポーツ協会・日本スポーツ少年団、富山県体育協会・富山県スポーツ少年団が主催する「スポーツ少年団緊急対策プロジェクト「スポーツ少年団活性化事業」」に応募したところ、

この成果があったのかかわからないが、前回の9名の児童に加えて、新たに5名の児童、5名の保護者の参加申し込みがあった。11月下旬から2月上旬の20回の教室では、ゲーム・運動遊びのほか、後受け身、前回り受け身の基礎、袈裟固めなど柔道の基本を練習した。児童には練習の前後に健康状況、活動状況などをチェック表に記入させた。児童は集中力がなく、すぐに飽きていたづらを始めるが練習には喜んで参加している。5名の保護者の皆さんには、自分のできる範囲で練習に参加いただくことにしているが、子供との一緒に体を動かすことができるとうたいへん喜んでいただいている。

わくわく少年少女のための柔道教室

スポーツ少年団活性化事業

はじめての柔道

20回シリーズ

- 転んでもケガをしない子供
- 先生や友達に挨拶ができる子供
- 相手を思いやるやさしい子供

保護者の方もいっしょに
参加されませんか。

楽しい運動あそびや柔道の基礎練習の中で、たくまさを身につけましょう。

参加者
大募集

開催 期間 ● 11月20日(土)～令和4年2月5日(土)の火曜日・土日に20回実施
曜日・時間 ● 火曜日 18:00～19:30 土曜日 9:00～10:30
会 場 ● 小矢部市武道館 (実施日等は裏面をご覧ください)
入 場 料 ● 小学生 1,000円 (保険料を含む) 大人 1,850円 (保険料のみ)
対 象 ● 小學校1年生～6年生の男女及びその保護者

柔道着は無料でお貸します。

「オランダでの取り組み」

オランダのサッカーのクラブでは、トレーニングの一つとして柔道を取り入れている。サッカーに必要な受け身やボールの動きに似ている動きもたくさんある。選手とどつちかでも取組むと、転んでも受け身とすることでケガをしにくいのだ。面白い目で見てとてとても効果的な練習だ。

(日本柔道連盟 柔道(小)と20歳以下(海外) Judo: ノントのどころより提供)

お問い合わせ

小矢部市柔道協会

中嶋 齊 研 (TEL 090-3888-3700) 佐藤 隆 (TEL 090-1394-3270)

市道火曜日は(18時～20時)、木曜日(18時～19時)と、土曜日(9時～11時)は、小矢部市武道館でスポーツ少年団の指導をしていきますので、お電話に伺ってください。見学も大歓迎です。

申し込み方法

裏面の申込書に必要事項を記入し、小矢部市武道館で募集を締め切る。上記の申込書をお送りください。または、次の電話までお問い合わせください。 7932-0058 小矢部市小矢部町 9-2 武道 電話

この募集要項は、小矢部市に日本スポーツ少年団、日本スポーツ少年団、富山県スポーツ少年団、富山県スポーツ少年団の協力を得て実施します。

小矢部市柔道協会 小矢部市柔道スポーツ少年団

「はじめての柔道教室」に参加する児童には、様々な運動遊びやゲームを通して運動・スポーツが好きになるとともに心身ともに逞しくなってほしい。この子供たちがそのまま柔道を続けてくれれば嬉しいのですが、柔道の基礎・基本を2～3年練習してからは、ホッケーや野球、サッカーなどの他のスポーツも経験し、いろいろなスポーツを楽しむことを勧めたい。

地域の皆さんには、柔道は価値あるもので、機会があれば子供や孫に体験させたいと思っていただけるような活動になるようにしたい。そのためには、指導内容の工夫、広報活動の充実、若手指導者の確保など、活動を支える体制の充実などに、市柔道協会をあげて取り組んでまいりたい。



編集後記

50 数年前、私が高岡工芸高校旧体育館で開催された昇段試験を受けた時、多くの中学生や高校生が参加していて会場はごった返していた。昇段試験が終わるのも夕方近くと遅かった。現在はどうかというと、受検者も極端に少なく正午過ぎにはもう終了する。このように多くの児童生徒が柔道をしていた時代を知っている者としては、近年の県内大会参加者は驚くほど少なく寂しい。少子高齢化の社会になり児童生徒が少なくなっているから当然柔道人口もそれに比例して少なくなるのは仕方がないことと考える人もいると思うが、・・・

今回、県教委保健体育課や県体育協会からお借りした資料、県立図書館で調べた資料などから、県内の柔道人口の推移等を表やグラフにまとめてみた。児童生徒数が減少している割合以上に柔道人口が減少している。競技種目の中には競技人口を増やしているところさえもある。強い危機感を持つ柔道指導者は多い。この原因については考え、その改善策に早急に取り組まないと柔道をやる児童生徒、大人がいなくなってしまう。

今年度、柔道人口拡大のための検討会（グループワーク）を2回開催し、それをまとめ今回掲載した。県内のスポーツ少年団やクラブの練習を拝見し、指導者の皆さんと意見交換もした。指導者の方々に柔道人口を確保するために工夫していることや、これから取り組みたいことなどについて寄稿いただいた。それぞれの団体でできること、できないことがあると思うが是非参考にして、日頃の指導に役立てていただきたい。

今年度開催した検討会や、スポーツ少年団、クラブの指導者の皆様と意見交換する中で、真剣に柔道の未来を心配し、柔道人口拡大に向けた新たな取組みを始めている指導者が多いと強く感じた。柔道人口を少しでも早くV字回復できるように、児童生徒、指導者、保護者、柔道を愛する関係の皆様などと力を合わせて取り組んでいきたいと思う。（宮崎 豊）

柔道人口の拡大のための調査研究 令和3年度のまとめ

発行日 令和4年3月20日

発行 富山県柔道連盟

〒930-2233 富山県富山市布目 3525-2 高瀬 宏 方

編集 柔道人口拡大のための調査研究班

班 長 宮崎 豊（富山県柔道連盟副会長）

副班長 高瀬 宏（〃 総務部長）

班 員 石黒淳一（〃 理事：少年部委員）

〃 黒田一夫（〃 常任理事：中体連柔道専門部委員長）

〃 梶谷正道（〃 常任理事：高体連柔道専門部委員長）

〃 竹内優香（〃 代議員：高岡市立福岡中学校教諭）

印刷 株式会社なかたに印刷

※ 無断転載、複写を禁じます。

公益財団法人 講道館

〒112-0003 東京都文京区春日 1-16-30

<http://kodokanjudoinstitute.org/>

公益財団法人 全日本柔道連盟

〒112-0003 東京都文京区春日 1-16-30 講道館本館 5F

<http://www.judo.or.jp/>

富山県柔道連盟

〒930-2233 富山市布目 3525-2 高瀬 宏 方

<http://www.judo-toyama.jp>